

富山県魚津市

市内遺跡試掘調査報告書

2008

魚津市教育委員会

富山県魚津市

市内遺跡試掘調査報告書

2008

魚津市教育委員会

序 文

遺跡は、過去の人々が生活した痕跡が大地に刻みこまれたもので、私たちが今日まで生きてきた証しといえるものです。国民共有の財産である文化財のひとつに、「埋蔵文化財」と呼ばれるものがあり、文化財保護法にその保護・保存について明記されています。

現在、日本国内で確認されている遺跡は40万箇所以上あり、長い年月の中で地中深く埋まったままの状態となっています。高度経済成長期以降、公共事業を含む各種開発行為によって、貴重な遺跡が失われていったことから、やむを得ず失われていく遺跡の記録を保存するため、発掘調査が行われるようになりました。

遺跡のある場所は「埋蔵文化財包蔵地」と呼ばれ、現代の私たちが生活していくなかで避けることのできない各種開発事業に対し、全国の地方自治体では、事業計画の範囲内に存在する埋蔵文化財包蔵地について、遺跡の有無やその範囲を確認するための試掘・確認調査を実施しています。

本書は、平成17年度から19年度にかけて、市内における各種開発に伴う試掘調査によって出土した遺物や検出された遺構などの調査成果を報告したものです。本報告書が地域の歴史を解明する研究の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査の実施にあたりまして多大なご協力をいただきました各調査地区の方々や各関係機関、発掘作業に従事いただいた作業員の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成20年3月28日

魚津市教育委員会

教育長 長島 潔

例 言

1. 本書は、富山県魚津市内に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地等において平成17～19年度までに実施した各種開発事業に伴う試掘調査の報告である。
2. 発掘調査は、魚津市が国庫補助・県費補助を受け、富山県教育委員会の指導のもと、魚津市教育委員会が主体となり実施した。
3. 調査事務局は魚津市教育委員会生涯学習課に置き、文化係が調査事務を担当、生涯学習課長が総括した。現地調査から報告書刊行に至る作業は、市教育委員会生涯学習課職員塩田明弘、的場茂晃が行った。
4. 発掘調査対象地、期間、面積等は本文中を参照されたい。
5. 発掘作業は社団法人魚津市シルバー人材センターに委託した。一部の試掘調査では、調査支援業務として層位図等の作成を働エイ・テックに委託した。
6. 発掘調査現場及び出土遺物の整理等の従事者は次のとおりである（敬称略）。

現地調査（掘削・検出・精査作業等）：天野 豊、廣田喜代志、谷崎長二、伊藤秀郎、小竹 進、木下 明、山田和夫、舟川一雄、稲葉幸雄、野口秀雄、伊藤金造、仲俣 弘、広瀬昭巳、大島 保、清河庄平、飛世 勝、竹野敏雄、山田喜金、奥村義一、馬場忠義、小川栄幸、浦田亮一、水尾之三

整理作業等（出土遺物の洗浄・注記・拓本等）：鍛冶房枝、毛利ユミ
7. 本書の執筆・編集は、塩田と的場が担当した。遺構や遺物等の実測、拓本、トレース等は的場と毛利が行った。
8. 発掘調査に際しては、関係各機関、地権者の方々をはじめ、多くのの方々のご理解とご協力をいただいた。
9. 出土遺物及び発掘調査の記録（図面・写真等）はすべて魚津市教育委員会が保管している。出土遺物には遺跡名を漢字で記入した。

凡 例

1. 本書に掲載した図版の方位は座標北、水平基準は標高（海拔高）を示す。また、ほ場整備事業及び天神山遺跡での試掘調査では、国土座標（世界測地系）を用い、水平基準は標高（海拔高）である。
2. 抄録に掲載した座標は旧世界測地系（日本測地系）を使用している。
3. 本書で示している遺構表記の略号は次のとおりである。
SK：土坑 SD：溝
4. 遺物実測図の縮尺は3分の1を基本とするが、古銭のみ2分の1とした。
5. 本書で用いた土層の色調は、小山正忠、竹原秀雄著『新版標準土色帖』（1997年版）に準拠している。
6. 実測図中の遺物断面の表現は次のとおりとした。

：石の断面 ：須恵器の断面

7. 出土遺物の番号は実測図、写真図版、遺物観察表の遺物番号にそれぞれ対応している。

目 次

第1章 地理的環境と歴史的環境	1
第1節 位置と環境	1
第2節 調査対象となった遺跡の概要	1
第2章 試掘調査の概要	5
第1節 平成17（2005）年度の調査	5
第2節 平成18（2006）年度の調査	15
第3節 平成19（2007）年度の調査	35
第3章 測量調査の概要	43
第1節 平成17（2005）年度の調査	43
第4章 結 語	45

図版目次

図版第1	(1) 3トレンチ（北より）	(2) 15トレンチ（北より）	(3) 15トレンチ出土の中世土師器埋
	(4) 16トレンチ（北より）	(5) 24トレンチ（北より）	(6) 豪雪により埋没した調査区
	(7) 蛇田地区出土遺物その1	(8) 蛇田地区出土遺物その2	
図版第2	(1) 1トレンチ調査状況（北より）	(2) 1トレンチ（南より）	(3) 1トレンチ遺構検出状況（北より）
	(4) 1トレンチ遺構検出状況（南より）	(5) 2トレンチ（東より）	(6) 1・2トレンチ（東より）
	(7) 3・4トレンチ（北より）	(8) 3トレンチ遺構検出状況（北より）	
図版第3	(1) 4トレンチ遺構検出状況（東より）	(2) 5トレンチ（南より）	(3) 5トレンチ遺構検出状況（北より）
	(4) 5トレンチ（北より）	(5) 大光寺遺跡出土遺物	
図版第4	(1) 調査状況（東より）	(2) 1トレンチ	(3) 3トレンチ
	(4) 埋め戻し状況（東より）	(5) 友道遺跡（砂田地区）出土遺物	
図版第5	(1) 調査区状況（南より）	(2) 4トレンチ調査状況	(3) 1トレンチ（南より）
	(4) 2トレンチ（西より）	(5) 4トレンチ（東より）	(6) 5トレンチ（南より）
	(7) 6トレンチ（南より）	(8) 7トレンチ（北より）	
図版第6	(1) 8トレンチ（東より）	(2) 7トレンチ須恵器出土状況その1（東より）	
	(3) 7トレンチ須恵器出土状況その2（南より）	(4) 7トレンチ遺物採取後の状況（東より）	
	(5) 友道遺跡（友道地区）出土遺物その1	(6) 友道遺跡（友道地区）出土遺物その2	
	(7) 友道遺跡（友道地区）出土遺物その3	(8) 友道遺跡（友道地区）出土遺物その4	
図版第7	(1) 1トレンチ調査状況その1（南より）	(2) 1トレンチ調査状況その2（西より）	
	(3) 1トレンチ東壁その1	(4) 1トレンチ東壁その2	
	(5) 2トレンチ調査状況その1（西より）	(6) 2トレンチ調査状況その2（西より）	
	(7) 2トレンチ南壁	(8) 友道遺跡（本江地区）出土遺物	
図版第8	(1) 調査区状況（北より）	(2) 1トレンチ東壁	(3) 2トレンチ（東より）
	(4) 3トレンチ（北より）	(5) 3トレンチ（南より）	(6) 4トレンチ（東より）

	(7) 5 トレンチ (北より)	(8) 仏出遺跡出土遺物	
図版第 9	(1) 調査区状況その 1 (西より)	(2) 調査区状況その 2 (南より)	(3) 調査区状況その 3 (北より)
	(4) 5 トレンチ (南より)	(5) 7 トレンチ (北より)	(6) 8 トレンチ (南より)
	(7) 12 トレンチ (南より)	(8) HS-09 遺跡出土遺物	
図版第 10	(1) 調査区状況その 1 (西より)	(2) 調査区状況その 2 (東より)	(3) 15 トレンチ (南より)
	(4) 17 トレンチ (南より)	(5) 20 トレンチ (北より)	(6) 23 トレンチ (南より)
	(7) 1 トレンチ調査状況 (南より)	(8) 6 トレンチ (南より)	
図版第 11	(1) 小川寺地塊出土遺物その 1	(2) 小川寺地区出土遺物その 2	
図版第 12	(1) 調査区状況その 1 (西より)	(2) 調査区状況その 2 (東より)	
	(3) 1 トレンチ調査状況その 1 (東より)	(4) 1 トレンチ調査状況その 2 (西より)	
	(5) 1 トレンチ遺物出土状況 (東より)	(6) 1 トレンチ調査状況その 3 (西より)	
	(7) 1 トレンチ中央部遺構検出状況 (東より)	(8) 1 トレンチ北壁	
図版第 13	(1) 1 トレンチ中央部 (東より)	(2) 1 トレンチ遺構検出状況その 1 (西より)	
	(3) 1 トレンチ遺構検出状況その 2 (西より)	(4) 2～4 トレンチ (西より)	(5) 大神山遺跡出土遺物
図版第 14	(1) 調査区状況その 1 (北より)	(2) 調査区状況その 2 (西より)	(3) 3 トレンチ掘削状況 (西より)
	(4) 5 トレンチ調査状況 (南より)	(5) 7 トレンチ調査状況 (西より)	(6) 2 トレンチ遺構検出状況 (南より)
	(7) 4 トレンチ遺構検出状況 (西より)	(8) 本江 B 遺跡出土遺物	
図版第 15	(1) 調査区状況 (東より)	(2) 1 トレンチ調査状況 (西より)	(3) 1 トレンチ (東より)
	(4) 2 トレンチ (南より)	(5) 2 トレンチ (南より)	(6) 3 トレンチ (西より)
	(7) 3 トレンチ (東より)	(8) 天上寺 A 遺跡出土遺物	
図版第 16	(1) 調査区状況その 1 (東より)	(2) 3 トレンチ (南より)	(3) 9 トレンチ (北より)
	(4) 12 トレンチ (南より)	(5) 調査区状況その 2 (西より)	(6) 13 トレンチ (南より)
	(7) 13 トレンチ調査状況 (北より)	(8) 17 トレンチ (南より)	
図版第 17	(1) 調査区状況その 3 (東より)	(2) 調査区状況その 4 (西より)	(3) 19 トレンチ (南より)
	(4) 20 トレンチ (北より)	(5) 蛇出地区出土遺物	

挿図目次

第 1 図	試験調査遺跡位置図 (縮尺 1/40,000)	2
第 2 図	平成 17～19 年度蛇田・小川寺地区トレンチ配置図 (縮尺 1/1/8,000)	6
第 3 図	蛇出地区トレンチ配置図 (縮尺 1/3,000)	7
第 4 図	蛇田地区山出土遺物実測図 (縮尺 1/3)	8
第 5 図	大光寺遺跡位置図 (縮尺 1/10,000)	9
第 6 図	大光寺遺跡トレンチ配置図及び遺構検出状況 (縮尺 1/600)	10
第 7 図	大光寺遺跡出土遺物実測図 (縮尺 1/3)	12
第 8 図	印田遺跡位置図 (縮尺 1/10,000)	13
第 9 図	印田遺跡トレンチ配置図 (縮尺 1/1,500)	14
第 10 図	友道遺跡位置図 (縮尺 1/10,000)	15
第 11 図	友道遺跡トレンチ配置図その 1 (縮尺 1/1,000)	16

第12図	友道遺跡出土遺物実測図その1 (縮尺1/3)	16
第13図	友道遺跡トレンチ配置図その2 (縮尺1/1,000)	17
第14図	友道遺跡出土遺物実測図その2 (縮尺1/3)	19
第15図	友道遺跡トレンチ配置図その3 (縮尺1/1,000)	20
第16図	友道遺跡出土遺物実測図その3 (縮尺1/3)	21
第17図	仏田遺跡位置図 (縮尺1/10,000)	22
第18図	仏田遺跡トレンチ配置図その1 (縮尺1/2,500)	23
第19図	仏田遺跡出土遺物実測図 (縮尺1/3)	23
第20図	仏田遺跡トレンチ配置図その2 (縮尺1/2,500)	24
第21図	HS-09遺跡出土遺物実測図その1 (縮尺1/2)	25
第22図	HS-09遺跡出土遺物実測図その2 (縮尺1/3)	25
第23図	HS-09遺跡トレンチ配置図 (縮尺1/3,000)	26
第24図	小川寺地区出土遺物実測図その1 (縮尺1/2)	27
第25図	小川寺地区トレンチ配置図 (縮尺1/3,000)	28
第26図	小川寺地区出土遺物実測図その2 (縮尺1/3)	29
第27図	天神山遺跡位置図 (縮尺1/10,000)	30
第28図	天神山遺跡遺構検出状況 (縮尺1/500)	31
第29図	天神山遺跡出土遺物実測図 (縮尺1/3)	32
第30図	本江B遺跡位置図 (縮尺1/10,000)	33
第31図	本江B遺跡トレンチ配置図 (縮尺1/1,500)	34
第32図	本江B遺跡出土遺物実測図 (縮尺1/3)	34
第33図	早月上野遺跡位置図 (縮尺1/10,000)	35
第34図	早月上野遺跡トレンチ配置図 (縮尺1/1,500)	36
第35図	天王寺A遺跡位置図 (縮尺1/10,000)	37
第36図	天王寺A遺跡トレンチ配置図 (縮尺1/1,000)	38
第37図	天王寺A遺跡出土遺物実測図 (縮尺1/3)	38
第38図	蛇田地区トレンチ配置図 (縮尺1/3,000)	40
第39図	蛇田地区出土遺物実測図 (縮尺1/3)	41

表目次

第1表	蛇田・小川寺地区は場整備年度別試掘調査計画表	5
第2表	平成17年度試掘調査実施一覽	14
第3表	平成18年度試掘調査実施一覽	34
第4表	平成19年度試掘調査実施一覽	41
第5表	市内試掘調査出土遺物観察表その1	47
第6表	市内試掘調査出土遺物観察表その2	48

第1章 地理的環境と歴史的環境

第1節 位置と環境

魚津市は、富山県の北東部に位置し、面積200k㎡余り、人口4万6千弱を数える。市内には北から順に、布施川・片貝川・角川・早月川と主要な4つの河川が流れている。北に隣接する黒部市との境をなす布施川、南に隣接する滑川市との境となる早月川、毛勝山や僧ヶ岳を源流とする片貝川、大平山周辺地域に源流をもつ角川が市域を貫流し、富山湾、日本海へ注ぐ。片貝川や早月川は、山地から海へ至る高度差に対し、流路距離が短いことから県内でも有数の急流河川として知られる。

魚津市の地形は、北アルプス立山連峰の1つである剣岳から連なる毛勝山や僧ヶ岳などの山岳地帯とその前山を成す丘陵地帯、平野部の扇状地帯で構成される。山地から流れ出る急流河川は、深い谷を形成しながら多くの土砂を運び、山地を抜け傾斜が緩くなったところで扇状地を形成する。市の平野部のうち半分以上は片貝川の扇状地といえる。さらに扇状地（洪積台地）上を流れる河川の両側には、河岸段丘が顕著に見られ、数段の段丘面が発達している。市内にある遺跡の多くは、この河岸段丘が発達した洪積台地上で確認できる。

第2節 調査対象となった遺跡の概要

平成17年度に実施した試掘調査の対象となった遺跡は、蛇田B遺跡、大光寺遺跡、印田遺跡である。蛇田B遺跡は、北陸自動車道建設に伴う分布調査で発見された遺跡である。布施川左岸の扇状地上にあり、近世の散布地として登録されている。試掘調査で遺構等は確認されなかったという。大光寺遺跡は、縄文時代中期の集落跡と中世の散布地として登録されている。遺跡は、角川と片貝川に挟まれた野方台地上にあり、角川によって形成された河岸段丘の近隣に位置する。1966、67（昭和41、42）年に小規模な試掘調査が行われ、刃跡が検出されたほか、東北地方の大木式や信州の曾利式、新潟県を中心に分布する火焰土器が出土したことから、各地域との交流を伺わせる貴重な発見となった。印田遺跡は片貝川左岸に広がる野方台地上にあり、北陸自動車道（魚津インターチェンジ）建設に伴う発掘調査では、縄文時代晩期と古墳時代中期の竪穴住居跡が検出されている。

平成18年度の調査対象となった遺跡は、友道遺跡、仏田遺跡、HS-09遺跡、天神山遺跡、本江B遺跡である。友道遺跡は、野方台地末端の沖積地への移行接点にあたり、片貝川の扇状地上に位置する。遺跡からは古墳時代後期、奈良・平安時代にかけての須恵器や土師器の他に白鳳時代の瓦が出土している。瓦の出土により概期の寺院が存在する可能性が指摘されるとともに、拠点的な集落が存在していたと考えられる。仏田遺跡は、国道8号入善黒部バイパス建設に伴う分布調査で発見された、古代から近世にかけての遺跡である。平成19年度に行われた試掘調査では、平安時代の遺物や遺構が確認され、集落跡と推測される。翌20年度に本発掘調査が実施されることから、遺跡の様相が具体的に判明すると思われる。HS-09遺跡は、隣接する黒部市との境界である布施川左岸の扇状地上に位置する。北陸新幹線建設に伴う分布調査で発見され、近世の散布地となっている。天神山遺跡は、明治時代頃より知られ、過去の試掘調査によって、縄文時代中期の竪穴住居跡が検出されており、概期の拠点となる集落遺跡である。本江B遺跡は、野方台地上に位置し、縄文時代と古代から中世にいたる遺跡である。国道8号魚津滑川バイパス建設に伴う本発掘調査によって、縄文時代中期と見られる竪穴住居跡が1棟、中世に属すると思われる石列が検出されている。

平成19年度に調査対象となった遺跡は、早月上野遺跡、天王寺A遺跡、大光寺遺跡、仏田遺跡であ



第1図 試掘調査遺跡位置図(縮尺1/40,000)

204003天王寺A遺跡 204014鉢田B遺跡 204016天神山遺跡 204017天神山城跡 204117仏田遺跡 204030本江B遺跡
 204037印州遺跡 204042友道遺跡 204043大光寺遺跡 204064早月上野遺跡 204111HS-09遺跡

る。早月上野遺跡は、隣接する滑川市と境界を流れる早月川と角川に挟まれた上中島台地上に位置する。旧石器時代後期から縄文時代、古代から中世にかけての複合遺跡である。市内に所在する縄文時代の遺跡の中でも長期間存続した拠点的な集落であるとともに、古代以降にも連続と集落が形成された遺跡である。天王寺A遺跡は片貝川の左岸、河口付近の沖積地上の微高地上にある。遺跡からは、ほ場整備や市営団地建設工事の際に古代の須恵器や土師器が採集されている。蛇田地区における調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地であるHS-09遺跡に隣接し、平成16年度に実施した分布調査で遺物が採取された箇所で行った。なお、平成20年2月6日に実施した早月上野遺跡と3月下旬に実施される大光寺遺跡、国道8号入善黒部バイパス建設に伴う仏田遺跡の試掘調査については、本書に掲載していない。

第2章 調査の概要

第1節 平成17（2005）年度の調査

布施川左岸地区ほ場整備事業に伴う試掘調査（1）

蛇田B遺跡・HS-09遺跡隣接区域

1. 調査にいたる経緯

平成16年10月、富山県魚津農地林務事務所より平成17年度に新規採択される布施川左岸地区での経営体育成基盤整備事業（ほ場整備型）について、周知の埋蔵文化財包蔵地の取り扱いの照会を受けた。工事計画範囲は、蛇田地区から隣接する小川寺地区までの61.6ha（約616,000㎡）で、その中に周知の埋蔵文化財包蔵地である、蛇田B遺跡とHS-09遺跡が確認されている。さらに未確認の埋蔵文化財包蔵地の存在も推測されることから、計画範囲内で分布調査を実施したところ、12地点で古代から近世にかけての土器・陶磁器が採集された。この分布調査の結果に基づき、再度協議を行い、埋蔵文化財包蔵地とその可能性がある4箇所をA～Fまでの6地区に分け、埋蔵文化財の有無や遺存状況、その範囲を確認することとした。本事業は、平成17年度に基本設計を行い、翌18年度から4箇年かけて工事を実施する計画である。試掘調査は、翌年度に工事が施工される箇所において実施し、保護措置を講ずるための基礎資料とした。調査に際しては、秋の刈り入れ後から、降雪までの約2、3箇月間に行い、平成17～19年度の3箇年かけて下記のとおり実施した。

第1表 蛇田・小川寺地区ほ場整備年度別試掘調査計画表

事業年度	調査区域	対象面積
平成17年度	蛇田地区内の遺跡及び遺物表採区域 A地区（15,669㎡）、B-1地区（20,850㎡）	36,519㎡
平成18年度	蛇田地区と小川寺地区の遺跡及び遺物表採区域 B-2地区（64,828㎡）、E地区（23,072㎡）、 F地区（5,204㎡）	93,104㎡
平成19年度	蛇田地区の遺物表採区域 B-3地区（17,135㎡）、C地区（4,827㎡）、 D地区（3,910㎡）	25,872㎡

2. 現地調査期間

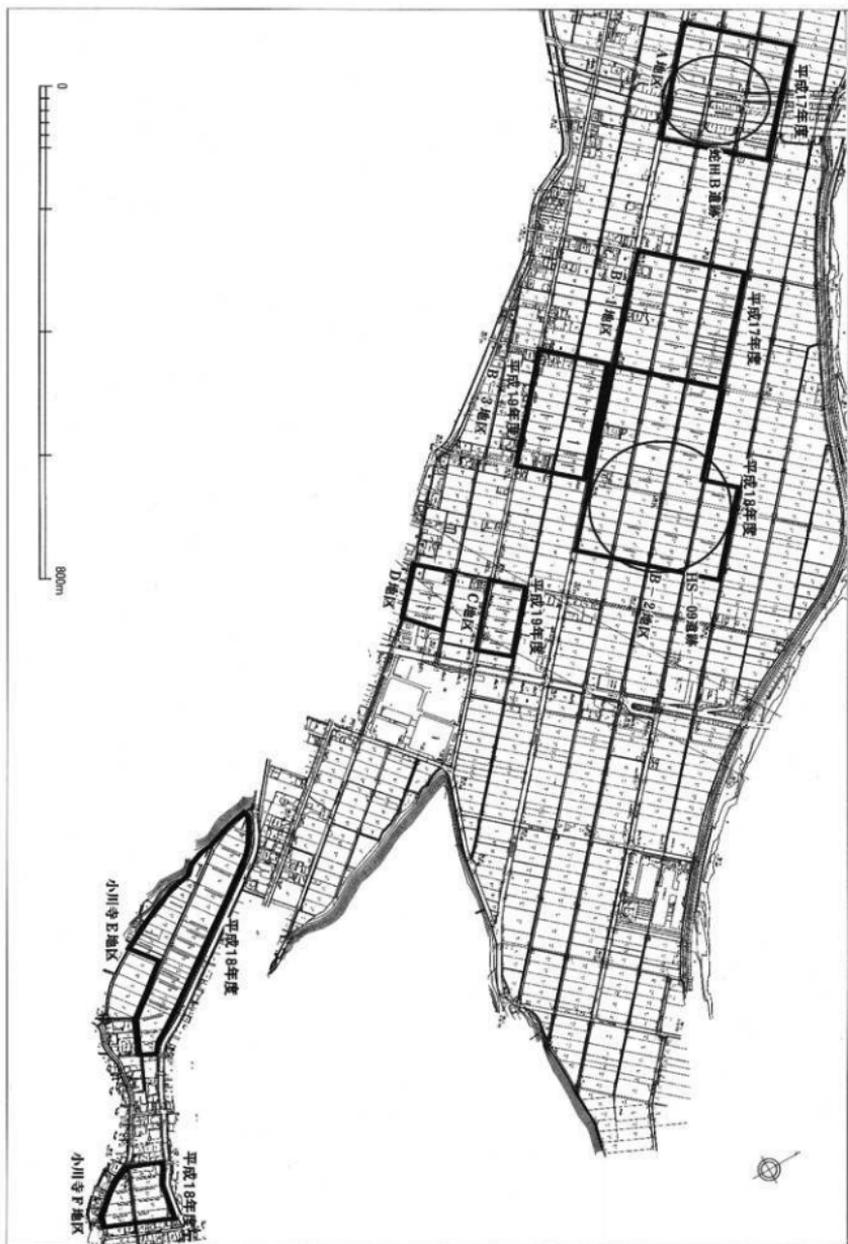
平成17年11月14日～12月12日、平成18年3月6日～23日

3. 調査対象地

北陸自動車道付近に位置する蛇田B遺跡（A地区）周辺及び分布調査で遺物が採集された箇所（B-1地区）の周辺

4. 調査の方法

調査対象地の水田に対して、幅1m、長さ10～40mのトレンチ（試掘溝）を設定し、遺物や遺構の



第2図 平成17・18・19年度トロン配置図(縮尺1/8,000)



第3図 蛇田地区トレンチ配置図 (縮尺 1/3,000)

確認作業を行った。出土遺物が少なく、遺構も検出されない場合は1筆おきにトレンチを設定した。

5. 調査面積

掘削面積890㎡（調査対象面積36,519㎡）

A地区（15,669㎡）では、長辺40mと短辺10mのL型トレンチを7本、長さ40mのトレンチを2本、長さ20mと30mのトレンチをそれぞれ1本ずつ設定し、計11本（470㎡）掘削した。

B-1地区（20,850㎡）では、長さ30mのトレンチを計14本（420㎡）を掘削した。

6. 調査の結果と調査後の対応

調査対象地に対して25本のトレンチを掘削し、うち10箇所のトレンチで古代（平安時代）、中世から近世（室町～江戸時代）と近代（明治時代）以降の遺物が確認された。15トレンチからは、15世紀代の土師器皿が完形品で出土し、隣接する16トレンチでは越中瀬戸や唐津といった近世の碗皿類が出土した。しかし人々の生活などの痕跡を示す遺構は検出されず、断面の観察においても遺構を含む地層は見当たらなかった。地区別に各トレンチから出土した遺物は下記のとおりである。

A地区

3トレンチ（以下、Tと省略）：須恵器・中近世陶器、6T：近世陶磁器（越中瀬戸など）

9T：近世陶器（越中瀬戸）

B-1地区

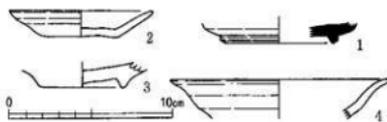
12T：近世以降の磁器、15T：中世土師器皿、16T：中近世磁器・近世陶器（越中瀬戸や唐津など）、17T：近世陶器（越中瀬戸）、18T：中世陶器（越前）、21T：中近世磁器・近世陶器（越中瀬戸）、23T：近世陶器（越中瀬戸）

調査の結果、中世以前の遺物はわずかで、遺構も検出されなかったことや堆積状況から、翌年度の施工箇所において、設計変更や本発掘調査の必要はないと判断し、その旨を原因者に報告した。

7. 出土遺物（図版第1、第4図）

本報告では、各遺跡から凶化可能な主要遺物を図示した。なお遺物に関しては、代表的・特徴的な指摘に留めることとし、個々の遺物に関しては、第5・6表の遺物観察表を参照されたい。

出土した遺物はコンテナ1箱分で、須恵器、土師皿、越中瀬戸、近世陶磁器などを確認した。そのうち須恵器1点（1）、土師皿1点（2）、越中瀬戸2点（3・4）を図化した。土師皿（2）は完形品であり、底面に回転糸切り痕を残す。



第4図 蛇田地区出土遺物実測図（縮尺1/3）

大光寺遺跡

1. 調査にいたる経緯

平成17年10月に不動産会社より、大光寺地内において宅地造成を行う際の埋蔵文化財包蔵地の有無について照会を受けた。計画予定地内には周知の埋蔵文化財包蔵地である大光寺遺跡が所在することを伝え、計画地の変更等の協議を行った。その結果、計画予定地内で遺跡が存在する場合には、事業計画の撤回も含めて再協議することになった。そこで、計画地の範囲内において地権者の了承が得られた箇所、遺物や遺構の有無及び遺存状況を確認するため、試掘調査を実施することとなった。

2. 現地調査期間

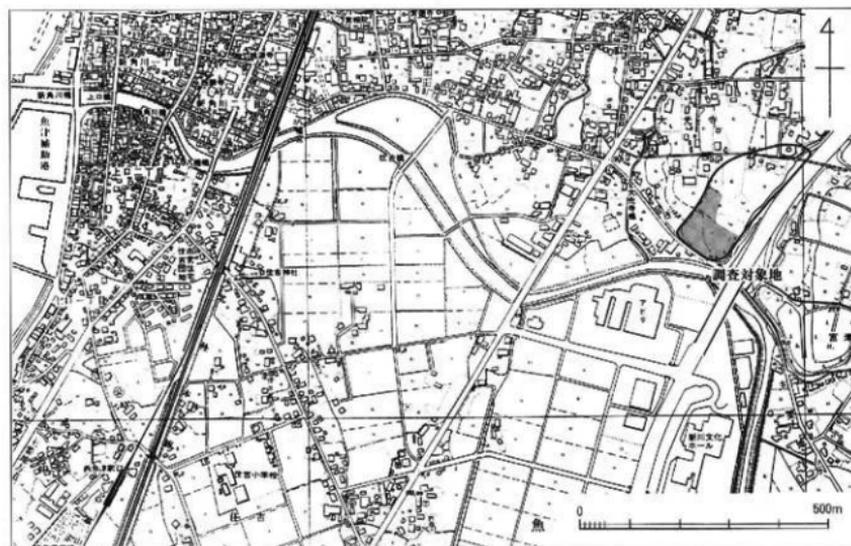
平成18年3月22日～3月28日

3. 調査対象地

遺跡の中央部から南部（大光寺594他24筆）

4. 調査の方法

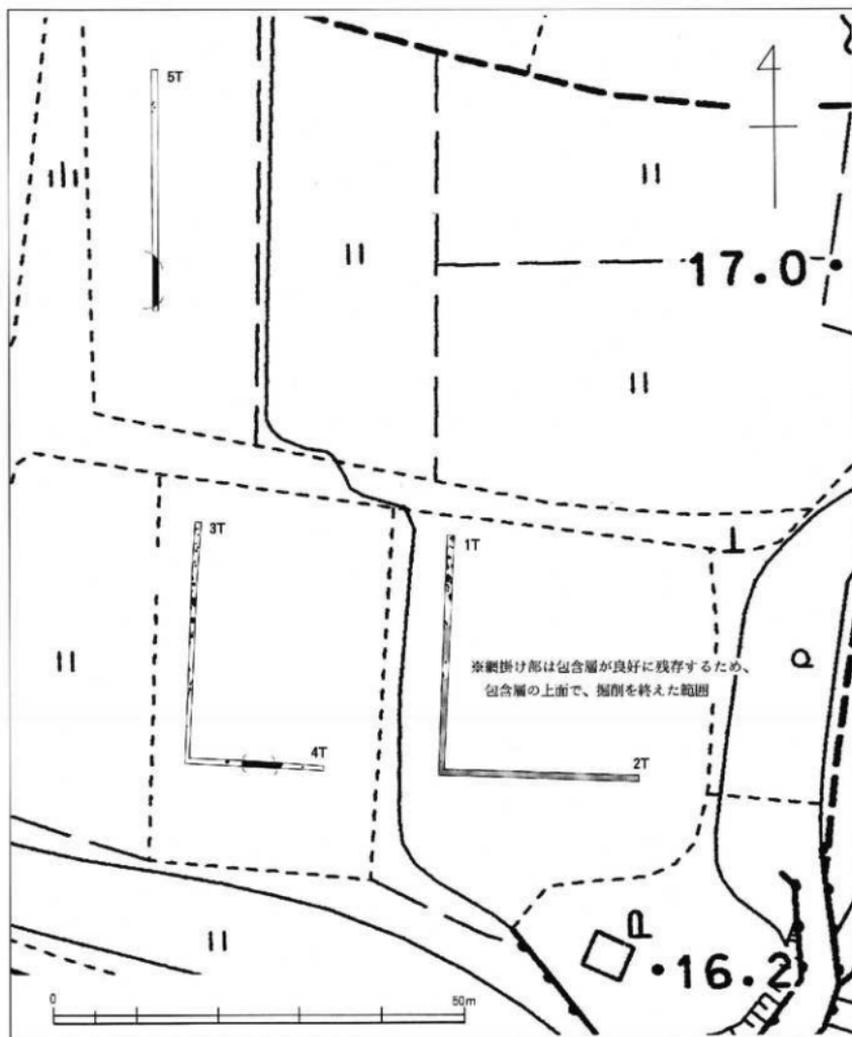
調査対象地の水田に対して、幅1m、長さ約20～30mのトレンチ（試掘溝）を設定し、小型重機（0.06㎡バックホー）により慎重に掘削を行いながら、遺物や遺構の確認作業を行い、地山面（ローム層上面）まで掘削した。



第5図 大光寺遺跡位置図（縮尺1/10,000）

5. 調査面積

掘削面積136㎡（調査対象面積5,000㎡）



第6図 大光寺遺跡トレンチ配置図及び遺構検出状況（縮尺1/600）

6. 調査の結果と調査後の対応

調査対象地に5本のトレンチを設定し、全てのトレンチで縄文時代、古代（平安時代）、中世（室町時代）の遺物が出土した。遺物包含層中に大量の土器が含まれていた場合や住居跡などの遺構が確認された場合には、一部掘削を中止した。基本土層の色調と厚さは、1. 耕作土：約15～20cm、2. 暗褐色～茶褐色粘質土層：約20～90cm、3. 漸移層：約10cm、4. 黄褐色粘質土層（ローム層）である。

各トレンチ（以下、Tと省略）の概要は以下のとおりである。

- ・1 T：耕作土下の層から多量の縄文土器や石器、少量の須恵器が出土した。穴や土坑など多数の遺構も検出された。
- ・2 T：1 T同様、土器を多量に含む遺物包含層が残り、大半は掘削を中止した。一部地山面まで下げ、穴が検出された。
- ・3 T：耕作土の下は後世（昭和40年代のは場整備によるものか）の盛土で、遺物包含層の大部分は削平を受けていた。しかし地山上面で、縄文土器を含む穴などが多数検出され、遺構面は残っていることが確認できた。
- ・4 T：3 Tと直交するため、西側の一部は遺物包含層が削平され、盛土がみられた。それ以外の地点では遺物包含層は遺存し、地山上面には、土坑や住居跡と推定できる円形遺構が検出された。
- ・5 T：耕作上より下層には遺物包含層が残り、堅穴住居跡と推定される円形遺構が検出された。

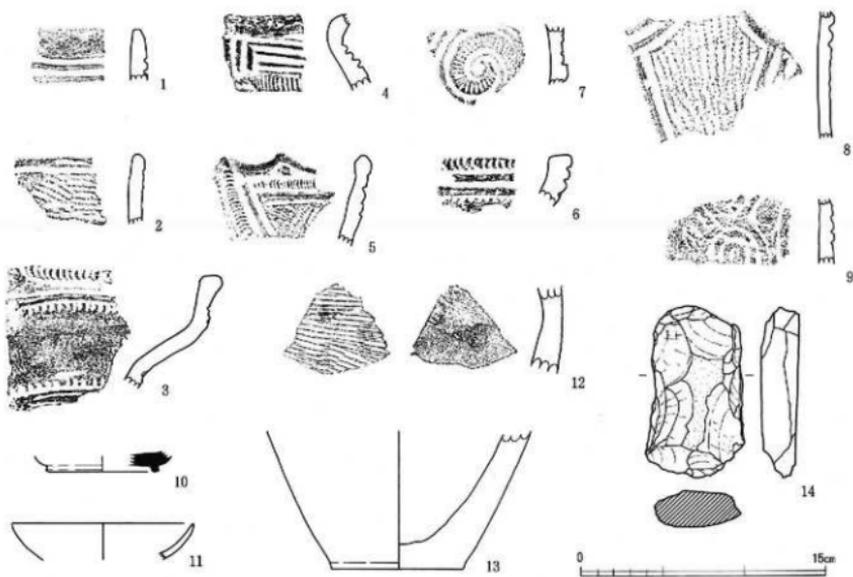
調査対象地は、一部削平を受けている箇所もあるが、大半の遺物包含層は良好に残り、遺構も多数検出されている。このため耕作土より下層に掘削行為を行う箇所はすべて本発掘調査の対象となることが判明した。今回の調査対象地内は、昭和41、42年に実施された試掘調査箇所も含まれており、火焔土器をはじめ東北地方など各地域で製作された縄文土器が発見され、当時の人々の交易活動範囲の広さを伺わせる資料が出土していた。その他縄文時代中期に相当する石組炉が検出されるなど集落跡が検出されており、今回の調査結果からも、本遺跡の範囲内には大規模な集落跡が存在する可能性がさらに高まった。この調査結果を報告し、造成工事の計画は中止となり遺跡は現状保存されることとなった。

7. 出土遺物（図版第3、第7図）

出土した遺物はコンテナ19箱分で、縄文土器、須恵器、土師器、珠洲、白磁、石器などを確認した。遺物の多くは縄文土器と石器である。

縄文土器には、渦巻文をもち、キザミ目文を施すもの（7）、隆起線文や半隆起線文上に爪形文や刺突文を施すもの（5・6）、沈線文を施すもの（1・3）などがある。いずれも、縄文時代中期中葉に属するものであると考えられる。また、石器には、打製石斧、磨製石斧、磨石などが出土した。

今回の試掘調査では、須恵器（10）も確認でき、これまで大光寺遺跡は、縄文時代中期および室町時代の遺跡として周知されていたが、古代も含まれることが判明した。



第7図 大光寺遺跡出土遺物実測図（縮尺1/3）

印田遺跡

1. 調査の目的

平成17年11月8日付け農業振興地域整備計画の変更に係る埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについて、県教育委員会より当地で計画されている個人住宅建設に際して、埋蔵文化財包蔵地に該当していることへの対応を協議するようとの通知を受けた。市教育委員会では、事業主と協議し、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施することとなった。

2. 現地調査期間

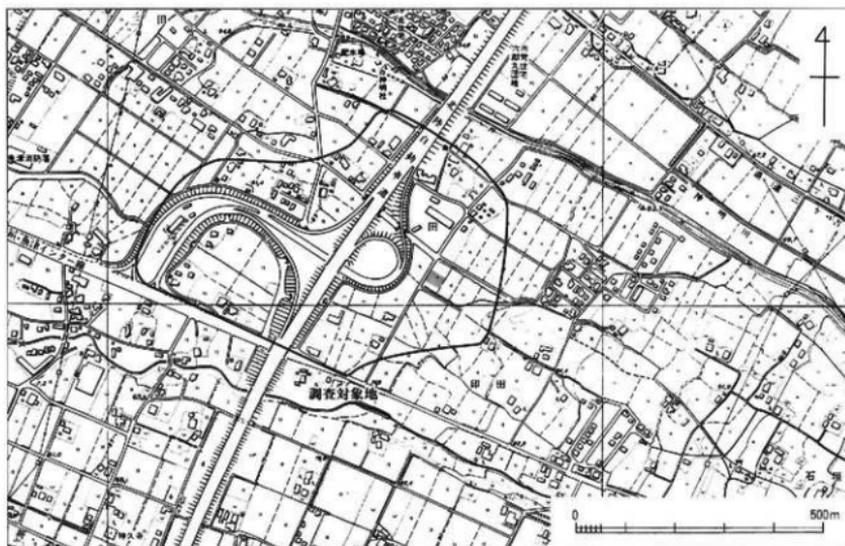
平成18年3月30日

3. 調査対象地

遺跡の東部（印田1492）

4. 調査の方法

調査対象地の水田に対して、幅1m、長さ約16～19mのトレンチ（試掘溝）を設定した。重機（0.25㎡バックホー）により、遺物・遺構の確認作業を行いながら、地山面（ローム層上面）まで掘削した。その後作業員による精査作業を実施し、土層の簡易測量と写真撮影を行った。



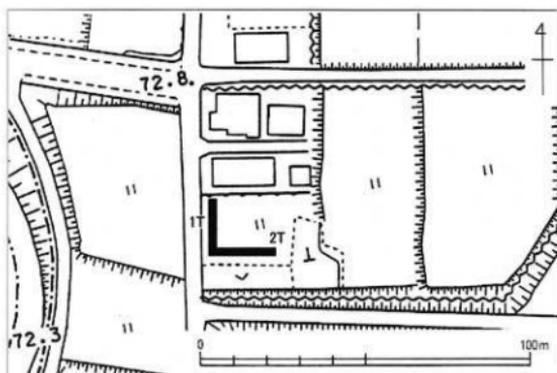
第8図 印田遺跡位置図（縮尺 1/10,000）

5. 調査面積

掘削面積 34.5㎡（調査対象面積618㎡）

6. 調査の結果と調査後の対応

対象地内に2本のトレンチを設定し、地山面（ローム層上面）まで掘削した。両トレンチとも耕作土除去後、すぐに地山面が現れ、遺物包含層・地山面上部が完全に削平されていることが判明した。出土遺物もなく、遺構も確認されなかった。調査の結果、対象地全体の削平により遺物・遺構は確認されず、予定どおり工事を実施して問題はない旨を事業者に報告した。



第9図 印田遺跡トレンチ配置図（縮尺 1/1,500）

第2表 平成17年度試掘調査実施一覧

遺跡名	所在地	調査の原因	調査期間	対象面積 (㎡)	調査面積 (㎡)
蛇田B遺跡	蛇田	ほ場整備	平成17年11月14日～同12月12日 平成18年3月6日～同3月7日	36519	890
大光寺遺跡	大光寺	遺構範囲確認（開発 実施決定の資料）	平成18年3月22日～同3月28日	5000	136
印田遺跡	印田	個人住宅建設	平成18年3月30日	618	34.5

第2節 平成18（2006）年度の調査

友道遺跡

1. 調査の目的

県教育委員会より、平成17年11月29日付け農地転用の許可に係る埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについて、申請地で計画されている個人住宅建設に際して、埋蔵文化財包蔵地に該当していることへの対応を協議するようとの通知を受けた。市教育委員会では、事業主と協議し、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施することとなった。

2. 現地調査期間

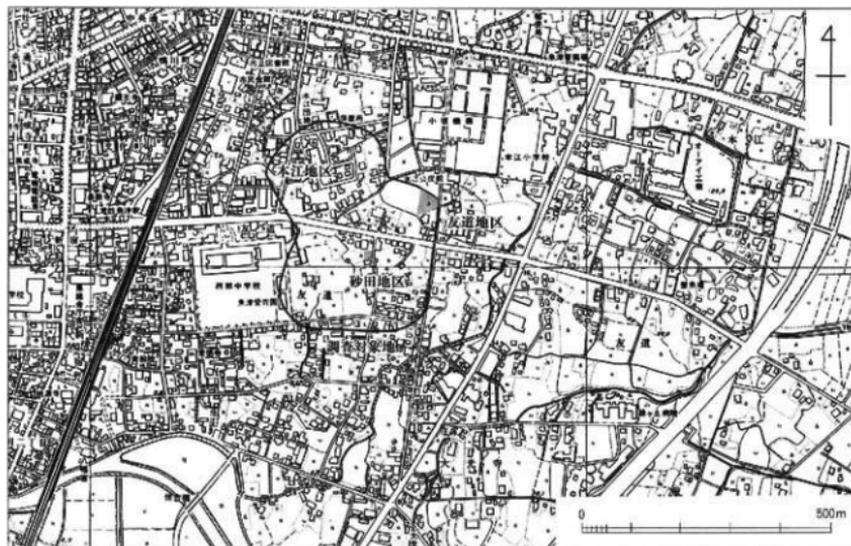
平成18年6月5、6日

3. 調査対象地

遺跡の中央部（友道砂田1470-2）

4. 調査の方法

調査対象地の旧梨畑に対して、幅1m、長さ3mのトレンチ（試掘溝）を設定し、人力による掘削を行いながら、遺物・遺構の確認作業を行い、地山面と判断される層（礫層・砂層上面）まで掘り下げた。各トレンチの掘削後は、土層の簡易測量と写真撮影を行った。



第10図 友道遺跡位置図（縮尺 1/10,000）

5. 調査面積

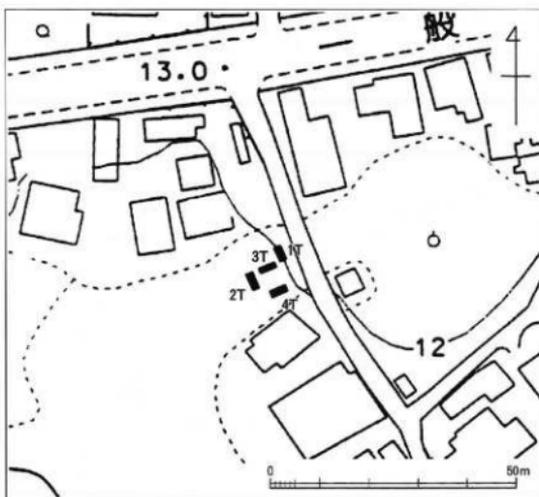
掘削面積 12㎡（調査対象面積368㎡）

6. 調査の結果と調査後の措置

対象地内に4本の試掘溝（トレンチ）を設定し、層位を確認しながら、15cm程ずつ掘削していき、深度1m程まで掘り下げた。地山（無遺物層）は、礫層（2トレンチ）、砂質土層（1、3、4トレンチ）と判断した。

遺物はそれぞれのトレンチから出土したが、大半が後世の攪乱層からのもので、原位置をとどめていない。また当該地には、明治から昭和初期まで宅地があったとされ、土地の削平や掘削を受けていると考えられる。

3、4トレンチの暗黄褐色砂質土層からは、わずかに数点古代の土器が出土しただけであることから、本調査の必要性はなく、予定どおり工事を実施して問題ないと判断した。

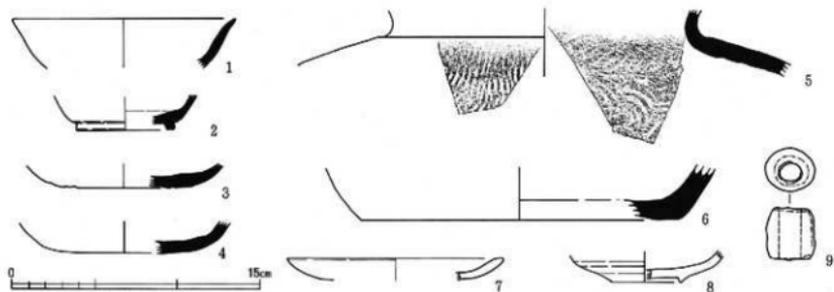


第11図 友道遺跡トレンチ配置図その1（縮尺 1/1,000）

7. 出土遺物（図版第4、第12図）

出土した遺物はコンテナ2箱分で、須恵器、土師器、土師皿、越中瀬戸、近世陶磁器などを確認した。そのうち須恵器5点（1～6）、土師皿1点（7）、越中瀬戸3点（8・9）を図化した。

越中瀬戸は皿と陶鍾を確認した。図化した陶鍾（9）は円柱状を呈するもので、完形品である。棒状の芯に陶土を巻き付け、手づくねで製作していると考えられる。

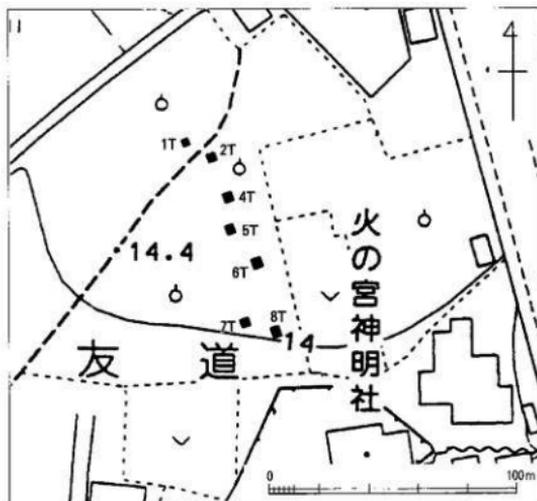


第12図 友道遺跡出土遺物実測図その1（縮尺 1/3）

友道遺跡

1. 調査にいたる経緯

市役所みどり保全課より、平成18年8月21日付け農地転用の申請にあたって、申請地が埋蔵文化財包蔵地に該当しており、その対応についての照会を受けた。申請地は古墳時代・古代（飛鳥～平安時代）の集落跡とされる友道遺跡の範囲内で、梨畑や畑として使用されていた。申請は駐車場建設に伴うもので、申請者と協議を行ったところ、申請地での掘削行為は行わず、砕石を敷き、アスファルト舗装をすにとどめるという施工状況を確認した。工事の実施に先立ち、埋蔵文化財の有無や遺存状況やその範囲を確認する試掘調査を実施することで合意した。



第13図 友道遺跡トレンチ配置図その2（縮尺 1/1,000）

2. 現地調査期間

平成18年11月2、3日

3. 調査対象地

遺跡の北東部（友道1419）

4. 調査の方法

調査対象地の畑に対して、2m×2mのトレンチ（試掘溝）を7箇所に設定し、人力によって掘削し、遺物や遺構の確認作業を行った。段階的に掘り下げていき地山面と判断される砂礫層まで掘り下げていった。いくつかのトレンチでは遺構が検出された黄茶褐色砂質上層の上面で掘削を中止している。各トレンチの掘削終了後、それぞれの土層の簡易測量と写真撮影などの記録作業を行った。

5. 調査面積

掘削面積 28㎡（調査対象面積1,719㎡）

6. 調査の結果と調査後の措置

対象地内に7本のトレンチを設定し、層位を確認しながら、15cmずつ掘削していった。地表から50～60cm程は梨畑や田直しによる後世の掘削・改変による盛土で、それより下層に古代（奈良・平安時代）に属する土師器や須恵器などの遺物包含層が残っていた。さらに下層は黄茶褐色（一部は黄褐色）

砂質土層でこの層上面が遺構検出面であり、1、6トレンチ以外で古代と推定されるビット（小型の穴）や土坑（中・大型の穴）、掘り込みを確認した。

遺物は1～8トレンチ全てから出土した。後世の改変による盛土から出土したものを除くと、大半が、土師器の碗や須恵器の杯、甕であった。遺物包含層の厚さは10～20cmほどで、暗褐色（一部は黒褐色）粘質土からなる。

駐車場造成にあたっては、掘削を伴わない舗装のみの施工であることから、本発掘調査の必要はなく、予定どおり工事を実施して差し支えないと判断した。但し将来的に掘削行為を伴う工事が実施される場合には、再度、文化財保護法の届出と本発掘調査が必要となってくる旨を事業者へ報告した。

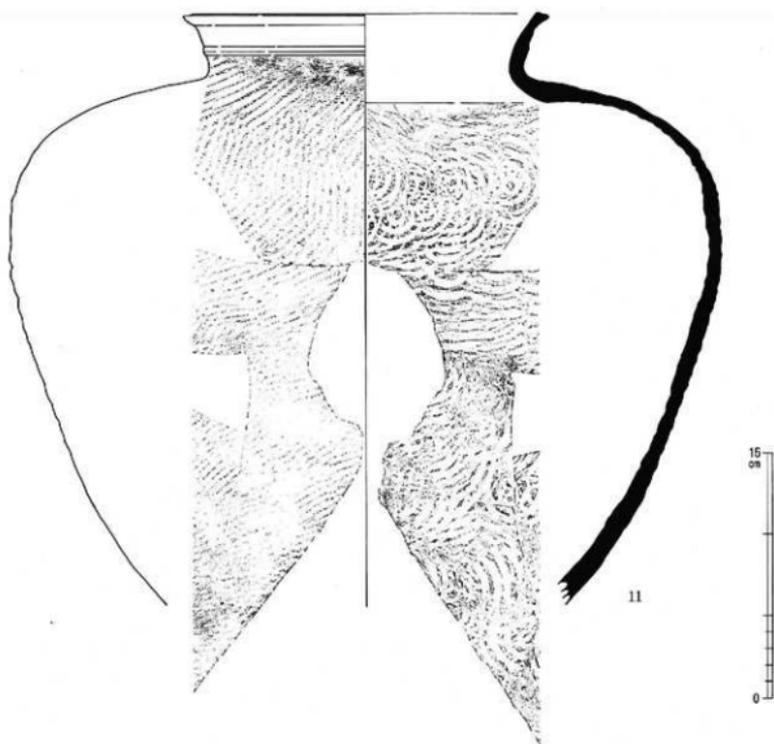
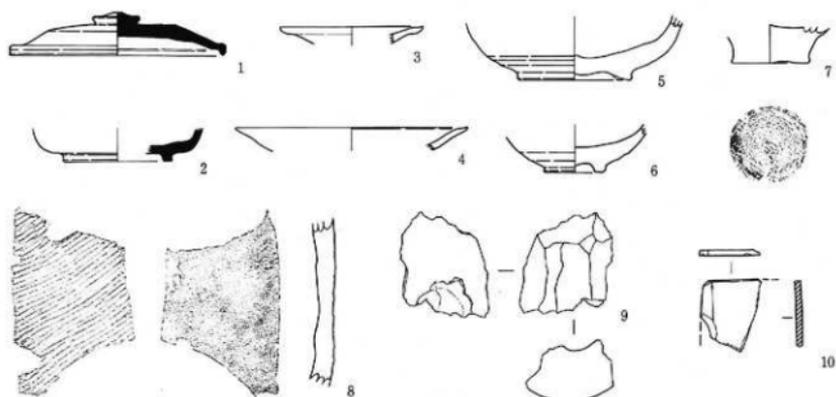
トレンチ番号	掘削深度	遺 構	遺 物
1 T (トレンチ)	80cm	なし	須恵器、土師器
2 T	64cm	土坑	須恵器、土師器
4 T	80cm	ビット (柱穴か)	須恵器、土師器
5 T	66cm	ビット (柱穴か)	須恵器、土師器
6 T	48cm	なし	須恵器、土師器、陶磁器
7 T	77cm	ビット、土坑	須恵器、土師器、陶磁器
8 T	60cm	掘り込み (竪穴住居か)	須恵器、土師器、陶磁器

※ 3 トレンチは設定したが、掘削はしていないため欠番

7. 出土遺物 (図版第 6、第14図)

出土した遺物はコンテナ 5 箱分で、須恵器、土師器、鞆羽口、珠洲、唐津、越中瀬戸、近世陶磁器、砥石などを確認した。

遺物は、古代に属するものが多く、蓋、杯、甕などがある。図化した須恵器蓋 (1) は完形品である。また、土坑内より出土した甕 (11) は、底部付近を欠損している。鞆羽口は、鞆の中央部分と思われ、外面には被熱痕が確認できる。

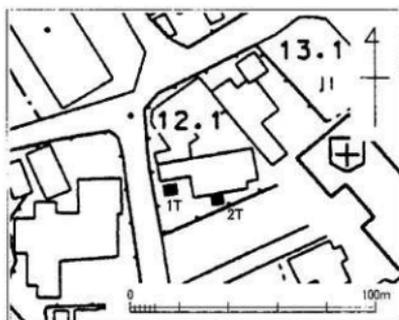


第14図 友道遺跡出土遺物実測図その2 (縮尺 1/3)

友道遺跡

1. 調査にいたる経緯

平成19年2月2日、不動産業者より本江地内にある個人住宅の敷地が周知の埋蔵文化財包蔵地内であるかの照会を受け、当地が友道遺跡の範囲内であると回答した。当概地には、一戸建て住宅が建っており、これを取り壊し、更地にした状態で売買契約を行うことから、埋蔵文化財の有無の確認を要請された。協議により、既存住宅を除外した箇所、掘削可能な地点の試掘調査を実施することとなった。



第15図 友道遺跡トレンチ配置図その3 (縮尺 1/1,000)

2. 現地調査期間

平成19年2月13日 (火)

3. 調査対象地

遺跡の北西部 (本江1627-3, 4、1616-6、1618-2)

4. 調査の方法

調査を開始するにあたり、トレンチ (試掘溝) を設定する場所の舗装部分を撤去し、掘削ができる状態にした。約2m×2mのトレンチを2本設定し、人力による掘削をおこなった。遺物や遺構の確認をしながら、徐々に掘り下げていき、地山面と判断される砂礫層まで掘り下げた。各トレンチの掘削終了後、それぞれの上層の簡易測量や写真撮影などの記録作業を行い、埋め戻しを行った。

5. 調査面積

掘削面積 8 m² (調査対象面積294 m²)

6. 調査の結果と調査後の措置

対象地内に2本のトレンチを設定し、層位を確認しながら20cm程ずつ掘削していった。当地が住宅となる前は、林 (湿地) であったとのことである。地表面から50~90cmまでは、後世の改変と思われる盛土で、それより下層の黒色系の粘質土と黄色系の砂質土から古代 (奈良・平安時代) や中世 (鎌倉・室町時代) に属する遺物が出土した。これらの地層は遺物包含層と考えられるが、住居跡や柱穴といった遺構は検出されていない。

遺物は1、2トレンチから、古代の土師器や須恵器、中世 (室町時代) の土師器皿が出土した。遺物包含層の厚さは20~50cm程で、1トレンチでは舗装下93cm、2トレンチでは地表面から55~68cm下で検出される。

調査後、不動産会社と住宅施工会社とで協議を行い、地表面から50cmまでの掘削であれば埋蔵文化財に影響はなく、本調査の必要性がない旨を報告した。

1 トレンチ深度 (cm)・層位名

	鋪装
13	砂
30	灰茶褐色粘質土
30	黄茶褐色粘質土
20	灰褐色粘質土
14	灰黒褐色粘質土 (中世)
36	灰黄色砂質土 (古代~中世)
	砂層

2 トレンチ深度 (cm)・層位名

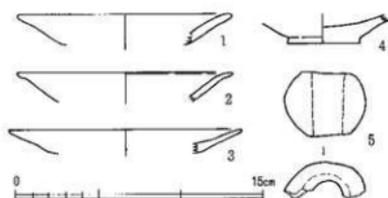
18	表土
22	灰茶褐色粘質土
28	黄茶褐色砂質土
16	灰黒褐色粘質土 (中世)
	礫層

3 トレンチ深度 (cm)・層位名

25	家基礎
12	コンクリ固め
12	灰茶褐色粘質土
33	黄茶褐色砂質土
23	灰黒褐色粘質土 (中世)
	礫層

7. 出土遺物 (図版第7、第16図)

出土した遺物はコンテナ5箱分で、須恵器、土師器、土師皿、珠洲、越中瀬戸などを確認した。土師器、土師皿ともに風化が著しい。越中瀬戸の皿(14)は、底面に回転系切りの痕跡を残す。越中瀬戸の陶鍾(5)は球状を呈し、他の友道遺跡出土の陶鍾(第12図)と比較してやや大きいものである。



第16図 友道遺跡出土遺物実測図その3 (縮尺 1/3)

仏田遺跡

1. 調査にいたる経緯

平成18年7月12日、建設会社より仏田地内で計画している工事予定地が埋蔵文化財包蔵地に該当しているかとの照会を受けた。予定地において事務所と倉庫、駐車場の造成を計画しているとのことであった。申請地は周知の埋蔵文化財包蔵地である仏田遺跡に該当しており、工事着手前に埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施することとなった。

2. 現地調査期間

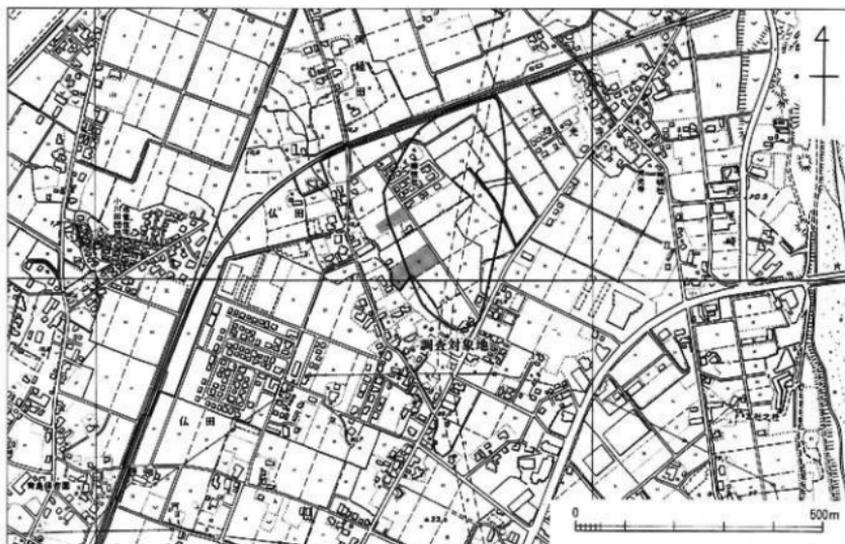
平成18年8月22日～24日

3. 調査対象地

遺跡の南西部（仏田3840）

4. 調査の方法

調査対象地の旧水田に対し、重機（0.25㎡バックホー）を用いて、幅1m、長さ20～30mのトレンチ（試掘溝）を設定した。調査員の指示により耕作土下の土層を丁寧に掘削しながら、遺物・遺構の確認作業を行い、地山面と判断される礫層まで掘り下げた。各トレンチの掘削後に土層の簡易測量と写真撮影を行った。記録作業が終了次第、埋め戻しを実施、現状復帰を行った。



第17図 仏田遺跡位置図（縮尺 1/10,000）

5. 調査面積

掘削面積 120㎡（調査対象面積3,480㎡）

6. 調査の結果と調査後の対応

調査対象地内に5本のトレンチを設定した。層位を確認しながら、15cm程ずつ掘削していき、深度0.2～1.7m程まで掘り下げた。地山は礫層と判断し、その上面まで掘削した。

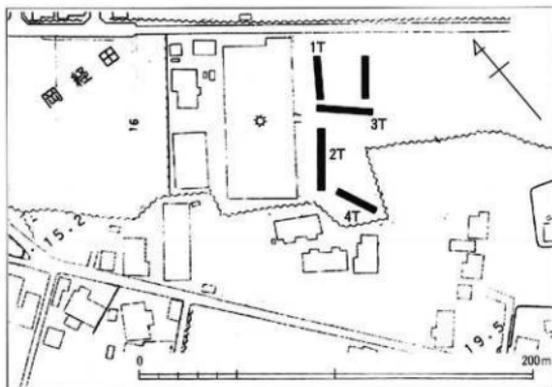
遺物は、1トレンチ、5トレンチの黄褐色砂質土層から、古代（平安時代）に属する須恵器が3点、2トレンチからは、近世に属する越中瀬戸が1点出土した。3トレンチの黄褐色砂質土層からは炭化物が30cm四方に確認されたが時期は不明である。

1～3トレンチにかけて、川もしくは沼を埋め立てた痕跡が確認された。4トレンチでは土坑状の掘り込みが1箇所検出されたが、遺物が出土せず時期は不明であった。

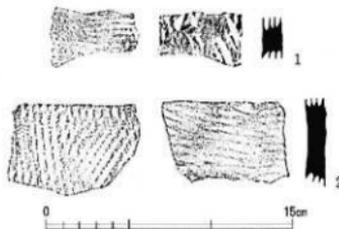
遺物の出土状態や遺構の検出状況、出土品の稀少さから、当地が集落跡などの遺跡である可能性はなく、予定どおり工事を実施して問題はない旨を報告した。

7. 出土遺物（図版第8、第19図）

出土した遺物は5破片と少数であり、須恵器、越中瀬戸を確認した。そのうち須恵器の胴部片2点（1・2）を図化した。ともに外面にタタキ痕、内面に当て具痕を残すが、タタキ後内面にナデ調整を施すもの（2）がある。



第18図 仏田遺跡トレンチ配置図その1（縮尺 1/2,500）



第19図 仏田遺跡出土遺物実測図（縮尺 1/3）

仏田遺跡

1. 調査にいたる経緯

平成18年11月14日、建設会社より駐車場建設予定地内において周知の埋蔵文化財包蔵地に該当するかとの照会を受け、予定地の一部が仏田遺跡に該当していることを回答した。協議により埋蔵文化財の有無を確認する試掘調査を実施することとした。

2. 現地調査期間

平成18年12月11日

3. 調査対象地

遺跡の中央西部（岡経田1388）

4. 調査の方法

調査対象地の畑に対して、4本のトレンチ（試掘溝）を設定し、重機（0.25㎡バックホー）によって掘削を行い、遺物や遺構の有無の確認作業を行った。層位を確認しながら、重機で段階的に掘り下げていき地山面と判断される砂礫層・砂層まで掘り下げた。各トレンチの掘削終了後、それぞれのトレンチの上層の簡易測量と写真撮影などの記録作業を行った。埋め戻しを実施し現状復帰を行い、調査を終了した。

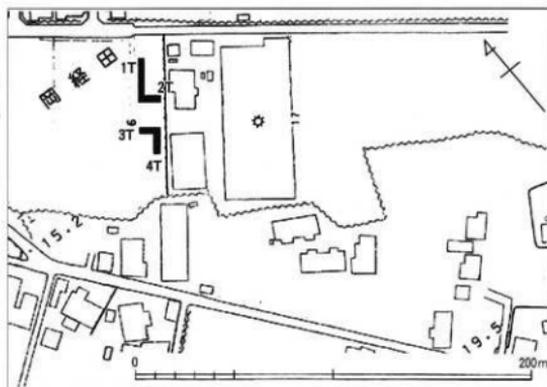
5. 調査面積

掘削面積 約50㎡（調査対象面積1,330㎡）

6. 調査の結果と調査後の措置

地表面から15～20cm程の表土より下の灰黄褐色～灰茶褐色砂質土層などを掘削したが、川跡や現代の用水跡以外は検出されなかった。現代の用水跡と推定される範囲の埋め土から江戸時代末～明治時代以降の陶磁器片が少量出土したのみであった。

調査の結果、工事予定地内には埋蔵文化財は存在せず、これ以上の発掘調査は必要なく、予定どおり工事を実施して差し支えないと判断し、その旨を報告した。



第20図 仏田遺跡トレンチ配置図その2（縮尺 1/2,500）

布施川左岸地区ほ場整備事業に伴う試掘調査（2）

HS-09遺跡

1. 調査にいたる経緯

蛇田・小川寺地区で実施される県営ほ場整備事業にともない、周知の埋蔵文化財包蔵地の他、分布調査によって包蔵地と推測される箇所も併せて試掘調査を実施し、遺跡の有無を確認することとなった。平成17年度より調査を実施しており、18年度は最も範囲が広いHS-09遺跡周辺と隣接する小川寺地区で遺物が採取された箇所の試掘調査を実施した。

1. 調査にいたる経緯

平成18年11月6日～11月30日

3. 調査対象地

北陸新幹線建設に伴う分布調査で見えられたHS-09遺跡周辺（B-2地区）

4. 調査の方法

調査対象地の水田に対して、幅1m、長さ10～20mのトレンチ（試掘溝）を設定し、重機（0.25㎡バックホー）による掘削を行い、遺物や遺構の確認につとめた。層位図とトレンチの位置は測量業者に委託した。

5. 調査面積

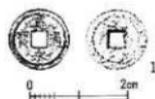
蛇田B-2地区（64,828㎡）

幅1m、長さ約22mのトレンチ：計18本（計396㎡）

6. 調査の結果と調査後の措置

対象地内に18本のトレンチを掘り、そのうち5本のトレンチで近世（江戸時代）の遺物が出土した。各トレンチからは、遺構や遺物包含層は確認できなかった。

調査の結果、中世以前の遺物や遺構が検出されないことから、遺跡には該当せず、翌年度の施工箇所に設計変更や本発掘調査の必要はない旨を報告した。



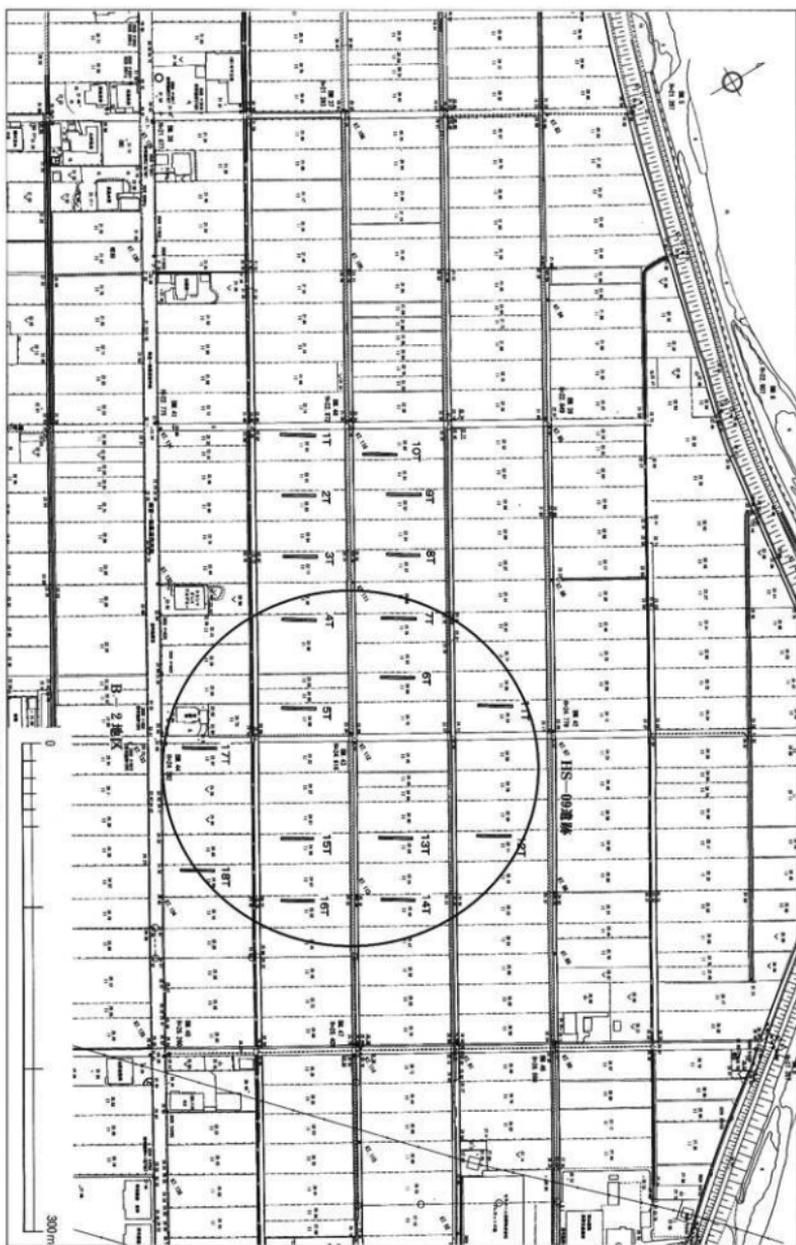
第21図 HS-09遺跡出土遺物実測図その1（縮尺 1/2）

7. HS-09遺跡出土遺物（図版第9、第22・23図）

出土した遺物は5破片と少数であり、越中瀬戸、近世陶磁器、古銭を確認した。越中瀬戸には、皿と搦鉢（1）を確認した。また、古銭は「寛永通宝」で、径約2.5cmを測る。



第22図 HS-09遺跡出土遺物実測図その2（縮尺 1/3）



第23図 HS-09道路トンネル配置図 (縮尺 1/3,000)

小川寺地区

1. 調査にいたる経緯

HS-09遺跡と同様のため、25ページを参照されたい。

2. 現地調査期間

平成18年10月10日～11月1日

3. 調査対象地

平成16年度実施の分布調査で遺物が採集された箇所（E、F地区）

4. 調査の方法

調査対象地の水田に対して、幅1m、長さ10～20mのトレンチ（試掘溝）を設定し、重機（0.25㎡バックホー）による掘削を行い、遺物や遺構の確認につとめた。層位図とトレンチの位置は測量業者に委託した。

5. 調査面積

小川寺E地区（23,072㎡）

幅1m、長さ約12mのトレンチを2本、幅1m、長さ約22mのトレンチを7本、幅1m、長さ約31mのトレンチを11本：計20本（798㎡）

小川寺F地区（5,204㎡）

幅1m、長さ約17mのトレンチを3本、幅1m、長さ約22mのトレンチを1本、幅1m、長さ約32mのトレンチを3本：計7本（169㎡）

HS-09遺跡・小川寺地区

総掘削面積：1,363㎡（調査対象面積93,104㎡）・総トレンチ数：45箇所

6. 調査の結果と調査後の措置

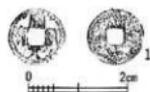
対象地内に27本のトレンチを掘り、そのうち17本のトレンチで古代（平安時代）から近世（江戸時代）、近代（明治時代）にいたる遺物が出土した。トレンチには、過去の人々が生活していた痕跡を示す遺構は検出されず、遺物包含層も見当たらなかった。

調査の結果、中世の遺物は定量出土しているが、遺構が検出されないこと、層位からは沼地の堆積状況を示すことから、遺跡には該当せず、翌年度の施工箇所、設計変更や本発掘調査の必要はない旨を報告した。

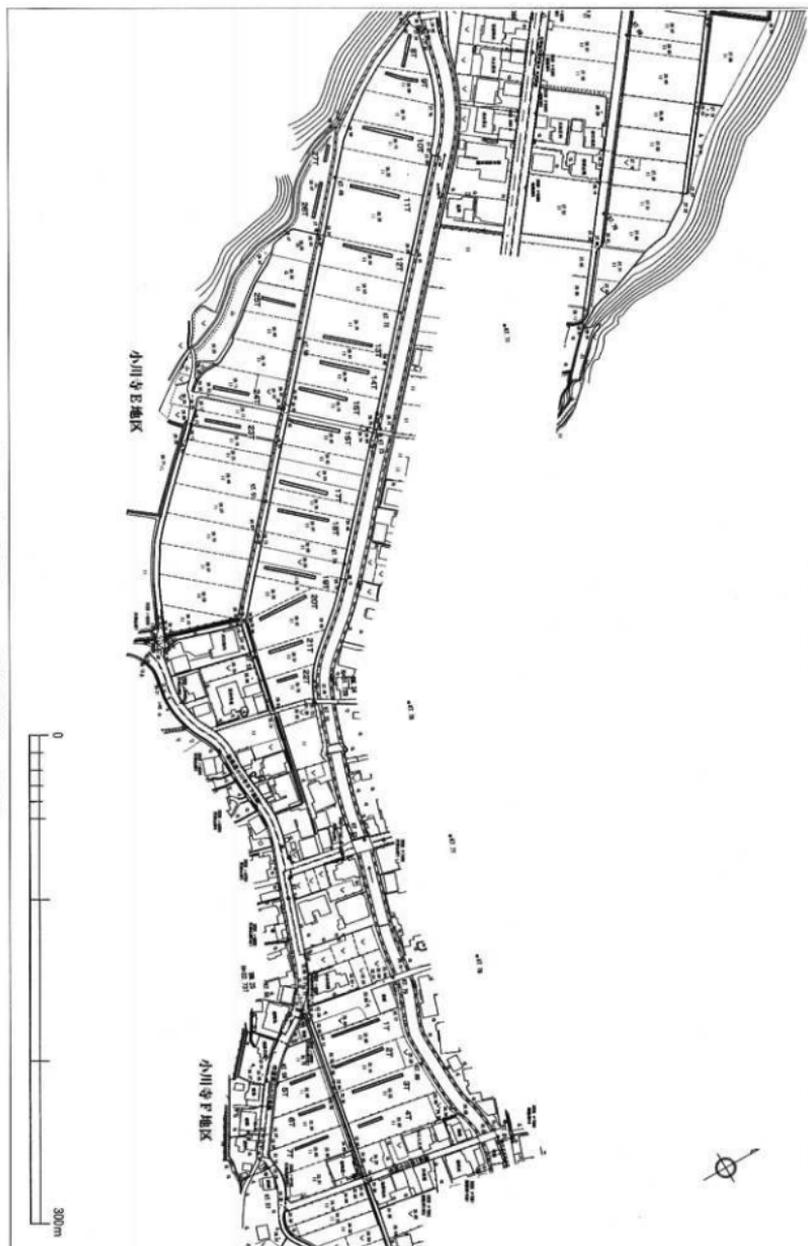
7. 小川寺地区出土遺物（図版11、第25・26図）

出土した遺物はコンテナ3箱分で、土師皿、珠洲、青磁、白磁、越中瀬戸、近世陶磁器、古銭などを確認した。

珠洲では、播鉢（7～10）と甕（11・12）を図化した。播鉢には、「大」

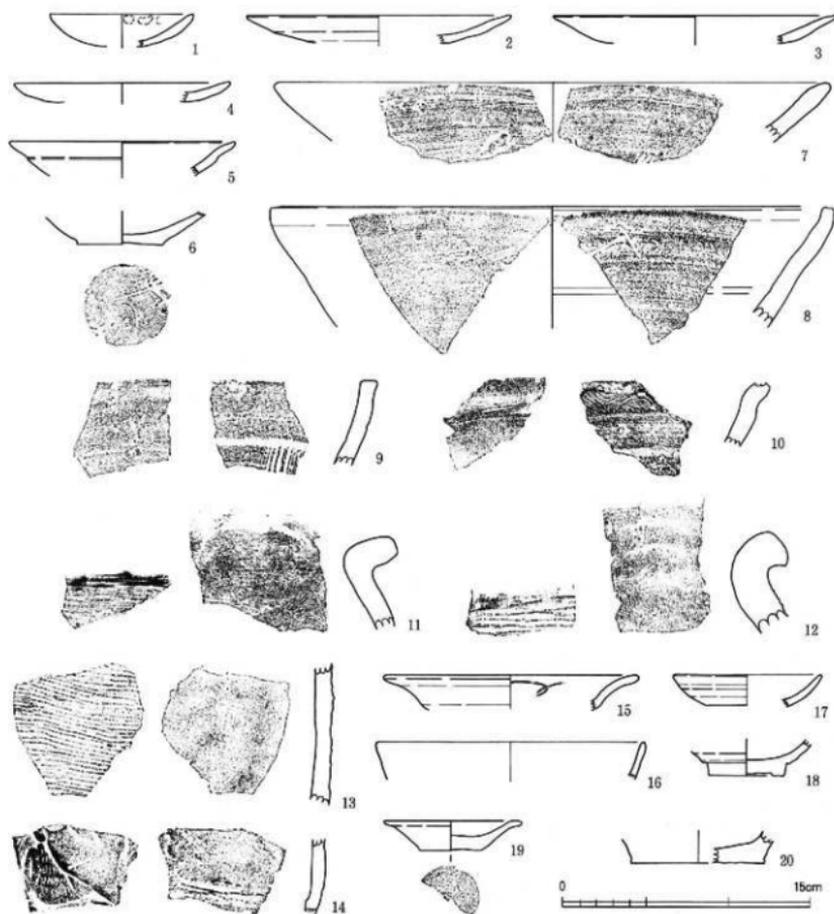


第24図 小川寺地区出土遺物実測図その1（縮尺1/2）



第25図 小川寺地区トレンチ配置図 (縮尺 1/3,000)

のヘラ記号を確認できるもの(8)や、口縁端部に波状文を施すもの(10)などがある。前者は12~13世紀頃、後者は15世紀頃のものと考えられる。またその他の2点の播鉢(7・9)はともに14世紀頃と考えられる。越中瀬戸では、碗(18)、皿(19)、底部片(20)などを確認した。古銭は「開元通宝」で、径約2.3cmを測る。



第26図 小川寺地区出土遺物実測図その2 (縮尺 1/3)

天神山遺跡

1. 調査にいたる経緯

県新川土木センター発注による小川寺地内の地崩れ防護壁建設工事において、計画地内に埋蔵文化財包蔵地が含まれていることについて平成18年11月2日に緊急協議を行った。この期間は、市教育委員会による蛇田地区での試掘調査を実施していたが、工事が既に発注済みであり、現在その工事を中断していることから、工事対象地内で遺跡の有無や範囲を確認するため、試掘調査を実施することとなった。

対象地は、明治の頃より縄文時代の遺跡として知られる遺跡で、本遺跡がひろがる台地の崖際に位置し、遺跡の大半はぶどう畑となっている。工事の施工概要は、県が買収した予定地において、排水のためのU字溝を設置するために地表面から50cm掘削する工事と台地の一部を頂部から切り落とすものであった。

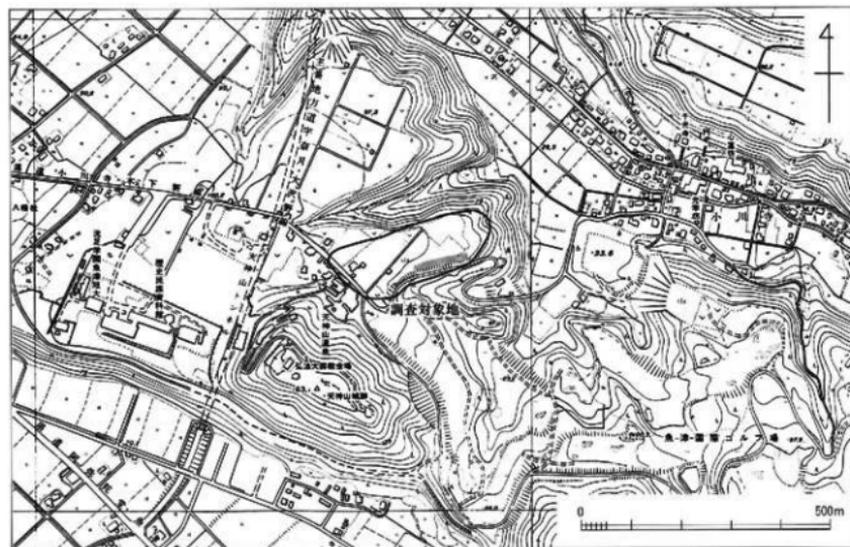
2. 現地調査期間

平成18年11月8日～10日

3. 調査対象地

遺跡の南東～東端部北東部（小川寺字天神山1071-18、6092B）

4. 調査の方法



第27図 天神山遺跡位置図（縮尺 1/10,000）

調査対象地に幅1m、長さ96m、1m×1mのトレンチ（試掘溝）を設定し、重機（0.25㎡バックホー）によって掘削し、人力による遺物や遺構の確認作業を行った。段階的に掘り下げていき地表面と判断される黄褐色粘質土層（ローム層）まで掘り下げた。但し土器が多量に出土した場所など部分的に掘削を中止した箇所もある。各トレンチの掘削終了後、土層や検出された遺構の層位図と平面図の測量図を作成、写真撮影等の記録作業を行い、現地調査を終了した。

5. 調査面積

掘削面積 約100㎡（調査対象面積 約1,200㎡）

6. 調査の結果と調査後の措置

調査対象地内に4本のトレンチを設定し、層位を確認しながら、掘削していった。対象地は台地の崖で、重機は作業可能な範囲まで掘削を実施し、狭小部分は人力による掘削を行った。1トレンチは幅1m、長さ約96m、2～4トレンチは一辺1mの坪掘りである。

1トレンチでは、地表から10cm程掘削すると縄文土器や石器を含む遺物包含層が確認され、地山層上面では土坑や柱穴と推定されるピットや竅穴住居と推定される掘り込みが検出された。但し全域ではなく、東側半分は土地の掘削により遺構や遺物は確認されていない。確認のために設定した2～4トレンチにおいても遺構・遺物は検出されなかった。

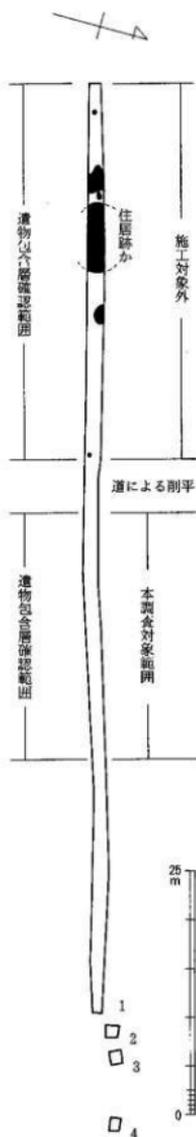
遺物は1トレンチから、縄文時代中期の土器や石器が大量に出土した。1トレンチの西側部分や中央部分は、遺物包含層や遺構検出面が残存し、遺構の覆土にも土器が確認された。遺存する遺物包含層の厚さはおよそ20cmで暗褐色（一部は黒褐色）粘質土からなる。

調査終了後、再度県土木センターと調査結果及び今後の対応について協議をおこなった。地崩れ防護壁を建設するにあたり、崖面を切除する範囲に遺物包含層や遺構面が残っている箇所（約170㎡）があり、現段階では設計変更が不可能であるため、翌（平成19）年度に本発掘調査を実施することで合意した。

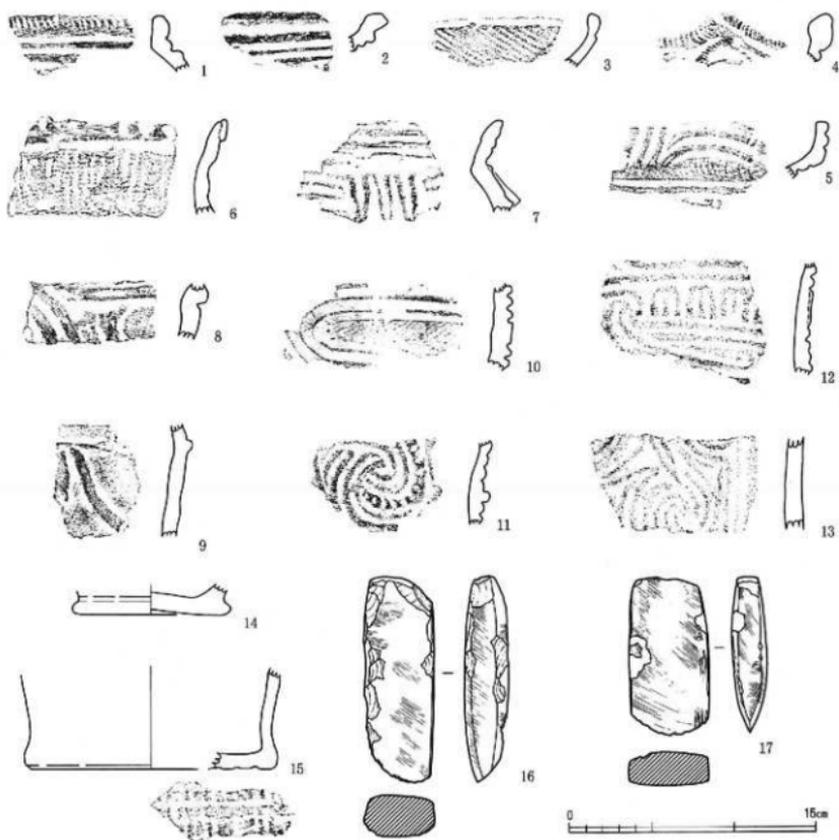
7. 出土遺物（図版第13、第30図）

出土した遺物はコンテナ14箱分で、縄文土器、打製石斧、磨製石斧、石斧未成品、砥石などが出土した。すべて縄文時代の遺物である。

土器は、隆起線文や半隆起線文、沈線文、渦巻文、爪形文、刺突文などを基本にした文様構成であり、縄文時代中期中葉を中心とした遺物群である。また、底部に網代痕を残すもの（15）なども確認できる。天神山遺跡については、平成19年度にこの試掘調査を元に、本発掘調査が行われており、詳細についてはそちらを参照されたい（魚津市教育委員会2008）。



第28図 天神山遺跡遺構検出状況（縮尺 1/500）



第29圖 天神山遺跡出土遺物実測圖(縮尺 1/3)

本江B遺跡

1. 調査にいたる経緯

平成18年9月、不動産会社より本江B遺跡範囲内と隣接地内において、宅地造成の計画があるため、予定地内での埋蔵文化財の有無について照会があった。同年11月に農振除外を行う予定であることや計画予定地内に埋蔵文化財包蔵地が確認されて本発掘調査となった場合は、計画自体の見直しも検討することから早急に調査を実施することとなった。

2. 現地調査期間

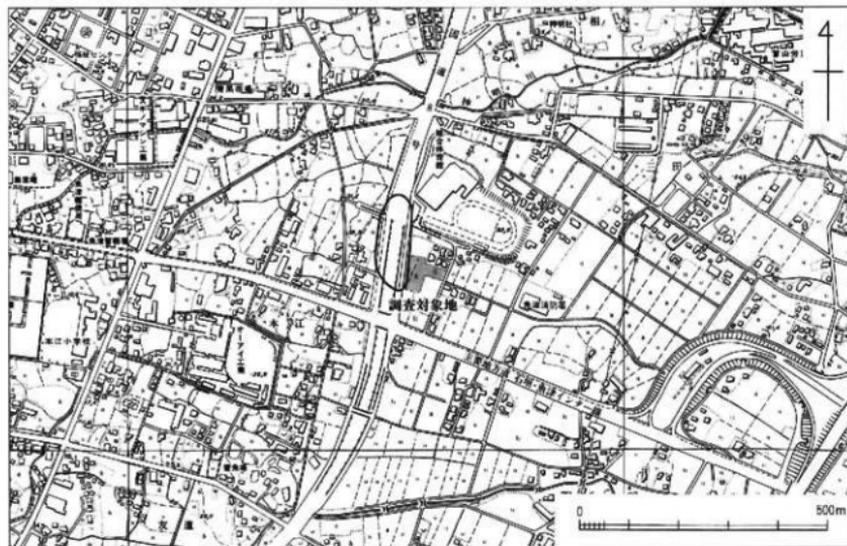
平成18年12月4日～6日

3. 調査対象地

遺跡の中央東部（本江字窪畑428-1他8筆）

4. 調査の方法

調査対象地の水田に対して、10本のトレンチ（試掘溝）を設定し、重機（0.4㎡バックホー）により掘削しながら、遺物や遺構の確認作業を行った。層位を確認しながら、重機で段階的に掘り下げていき地山面と判断される黄褐色粘質土層（ローム層）まで掘り下げた。各トレンチの掘削終了後、それぞれの土層の簡易測量と写真撮影、設定トレンチの平面測量などの記録作業を行った。



第30図 本江B遺跡位置図（縮尺1/10,000）

5. 調査面積

掘削面積 約170㎡（調査対象面積2,816㎡）

6. 調査の結果と調査後の措置

調査対象地は、1985（昭和60）年に行われた国道8号バイパス関連の本発掘調査箇所（魚津市教委1986）と隣接している。過去の調査では、地表面から30～80cm程下層に残る黒色土層から、縄文時代と中世の遺物が出土している。また中世の石列が検出されたことから、今回の調査でも遺物等の出が予想された。調査では、黒色土層を丁寧に掘削するとともに、遺物や遺構の確認につとめた。各トレンチの黄褐色粘質土層上面（地山面）からは、柱穴と思われる穴や掘り込みが多数検出されたが、所属時期を示す遺物は出たしなかった。遺物は、縄文土器や中世土師器などが1～3、5、10トレンチから少量出土したが、調査対象地内において集落跡など人々の活動の痕跡は確認できなかった。

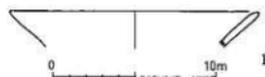
各トレンチの概要は下記のとおりである。

トレンチ番号	掘削深度	遺構	遺物
1T	140 cm	穴（柱穴か）	近世磁器皿 1
2T	100 cm	穴（柱穴か）	中世土師器皿 1、磁器碗 1
3T	130 cm	穴（柱穴か）	鉄塊（鉄滓）2
4T	90 cm	穴（柱穴か）	なし
5T	120 cm	穴（柱穴か）	中世土師器皿 1、近世磁器皿 1
6T	110 cm	穴（柱穴か）	なし
7T	83 cm	穴（柱穴か）	なし
8T	80 cm	穴（柱穴か）	なし
9T	160 cm	穴（柱穴か）	なし
10T	60 cm	穴（柱穴か）	中世土師器皿 2

調査の結果、工事予定地内においてこれ以上の発掘調査は必要なく、計画どおり工事を実施して差し支えない旨を報告した。

7. 出土遺物（図版第14、第33図）

出土した遺物は8点と少数であり、土師皿、近世陶磁器、鉄滓などが出土した。



第32図 本江B遺跡出土遺物実測図（縮尺 1/3）

第3表 平成18年度試掘調査実施一覧

遺跡名	所在地	調査の原因	調査期間	対象面積 (㎡)	調査面積 (㎡)
友道遺跡	友道砂田	個人住宅建設	平成18年6月5日～同6月6日	368	12
	友道	駐車場建設	平成18年11月2日～同11月3日	1719	28
	本江	個人住宅建設	平成19年2月13日	294	8
仏田遺跡	仏田	上場建設	平成18年8月22日～同8月24日	3480	120
	仏田	駐車場建設	平成18年12月11日	1330	50
HS-09遺跡	蛇田	ほ場整備	平成18年10月10日～同11月30日	64828	396
小川寺地区	小川寺	ほ場整備	平成18年10月10日～同11月30日	28276	967
天神山遺跡	小川寺	地崩れ防護壁建設	平成18年11月8日～同11月10日	1200	100
本江B遺跡	本江字洋畑	宅地造成	平成18年12月4日～同12月6日	2816	170

第3節 平成19（2007）年度の調査

早月上野遺跡

1. 調査にいたる経緯

平成19年4月、市建設課を通して泉新幹線駅周辺整備課から北陸新幹線路線建設に伴う墓地の移転先が埋蔵文化財包蔵地であるかとの照会を受けた。移転先は現在の墓地から農道を挟んだ地点にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地である早月上野遺跡に該当していると回答した。同月19日に協議を行い、6月中旬に試掘調査を実施することとなった。

2. 現地調査期間

平成19年6月18日

3. 調査対象地

遺跡の中央部（上野84）

4. 調査の方法

調査対象地の休耕田に対し、幅1m、長さ11～25mのトレンチ（試掘溝）を3本設定し、重機（0.25㎡バックホー）を用いて掘削を行った。耕作土下の土層を丁寧に掘削しながら、遺物・遺構の確認作業を行い、地山面と判断される層（粘土層）まで掘り下げた。各トレンチの掘削後に土層の簡易測量



第33図 早月上野遺跡位置図 (縮尺 1/10,000)

と写真撮影を行った。記録作業が終了次第、埋め戻しを実施、現状復帰を行った。

5. 調査面積

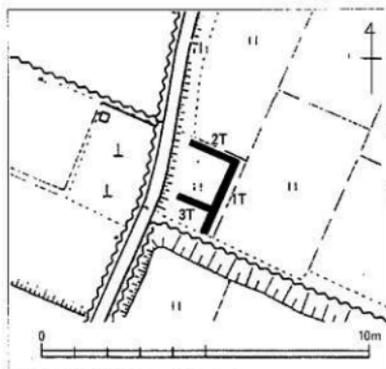
掘削面積 50㎡（調査対象面積約500㎡）

6. 調査の結果と調査後の措置

設定した3本のトレンチに対し、層位を確認しながら、耕作土から順次掘削を行った。深度0.1～0.7m程まで掘り下げたところで、地山である黄褐色粘土層を確認し、この粘土層の上層まで掘削を行った。なお、土層確認のため、一部を深度1.2mまで掘り下げている。

調査対象地は、過去に行われたほ場整備による地形の変更を受け、大きく削られており、一部埋め立てが行われていることを確認した。遺物は、3トレンチの南側より縄文土器片1点が出土したが、後世の埋め立てた上層からの出土である。

当地は遺跡の中心部ではあるが地形の変更を受け大規模な削平を受けており、遺物包含層や遺構は検出されなかった。このため、当地において予定どおり工事を実施して問題ないとの報告をおこなった。



第34図 早月上野遺跡トレンチ配置図（縮尺 1/1,500）

天王寺A遺跡

1. 調査にいたる経緯

市農業水産課より農振除外にかかる書類が市教育委員会に回覧され、当地が周知の埋蔵文化財包蔵地に該当していた。申請地は不動産会社による宅地造成が計画されており、県教育委員会からも予定地が埋蔵文化財包蔵地に該当しているため当事者と協議するよう通知があった。これを受け、早急に試掘調査を実施することとなった。

2. 現地調査期間

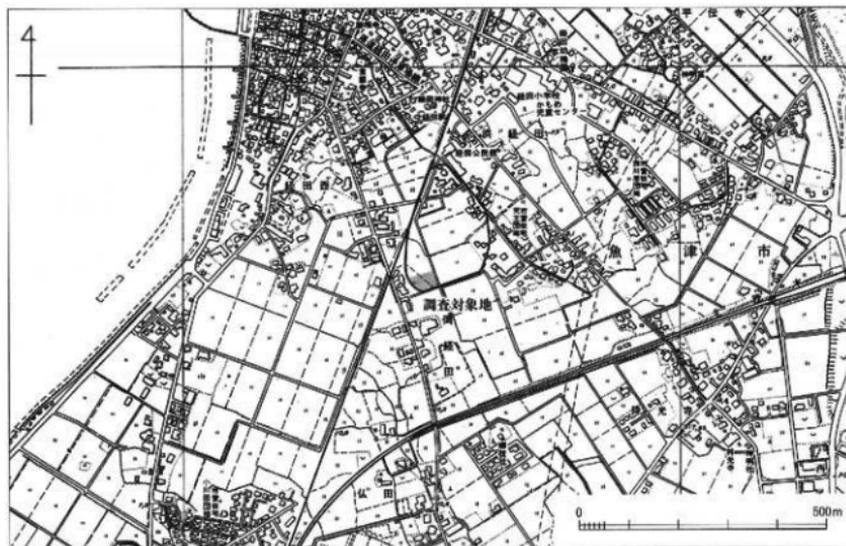
平成19年6月20、21日

3. 調査対象地

遺跡の西端部（経田字天王36）

4. 調査の方法

調査対象地の水田に対し、幅1m、長さ15～40mのトレンチ（試掘溝）を3本設定し、重機（0.25㎡バックホー）を用いて掘削を行った。また一部に遺構確認のため、試掘溝を拡張した。耕作土下の土層を丁寧に掘削しながら、遺物及び遺構の作業を行い、地山面と判断される層（砂層）まで掘り下げた。各トレンチの掘削後に土層の簡易測量と写真撮影を行った。記録作業が終了次第、埋め戻しを実施、現状復旧を行った。



第35図 天王寺A遺跡位置図 (縮尺 1/10,000)

5. 調査面積

掘削面積 93㎡（調査対象面積約1,252㎡）

6. 調査の結果

設定した3本のトレンチに対し、層位を確認しながら、耕作土から順次掘削を行った。深度0.2～1.2mほど掘り下げたところで、地山面である淡黄灰白色砂層を確認し、この砂層の上面まで掘削を行った。なお、土層確認のため砂層を掘削し、下層の礫層まで検出した。

調査の結果、調査対象地の中央を南北に走る旧河川の存在を確認した。また調査地の東端まで旧河川の埋土が確認できることから、遺跡の縁辺部であるものの湿地のような状態であったと考えられる。

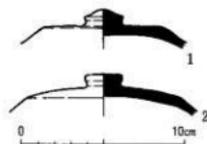
遺構や遺物が確認できる範囲は、調査対象地よりも更に東に存在しているものと考えられる。遺物は、旧河川の埋土より古代（平安時代）の須恵器及び土師器が10数点出土した。

調査対象地は遺跡の縁辺部にあたり、旧河川や湿地であったと考えられることから住居跡といった明確な遺構は確認できなかった。そのため当地においては、予定どおり工事を実施して問題ない旨を報告した。

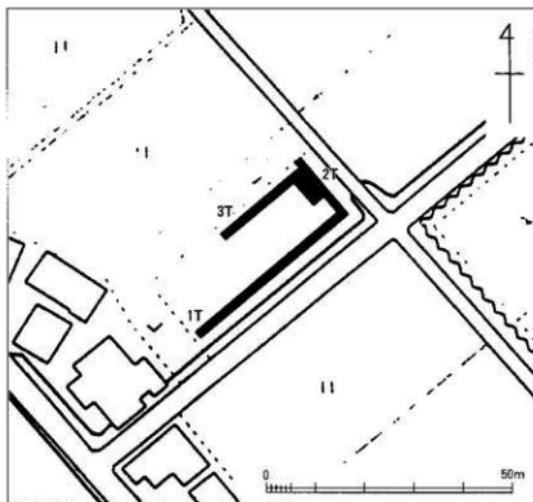
7. 出土遺物（図版第15、第38図）

出土した遺物は9点と少数で、須恵器、土師器を確認した。

須恵器は蓋2点（1・2）の他に壺の頸部片を確認した。蓋はともに、宝珠の付くものである。土師器は、細片であるが、おそらく壺の胴部片と考えられる。



第37図 天王寺A遺跡出土遺物実測図（縮尺 1/3）



第36図 天王寺A遺跡トレンチ配置図（縮尺 1/1,000）

蛇田地区

1. 調査にいたる経緯

蛇田・小川寺地区での県営は場整備事業に伴う分布調査で確認された、周知の埋蔵文化財包蔵地の隣接箇所が、埋蔵文化財包蔵地の可能性があることから、その有無や範囲を確認し、保護措置を講ずるための資料とするために平成17年度より試掘調査を実施している。平成19年度は3箇年にわたる試掘調査の最終年度である。

2. 現地調査期間

平成19年10月22日～11月8日

3. 調査対象地

HS-09遺跡周辺及び平成16年度実施の分布調査で遺物が採集された箇所であるB-3地区、C地区、D地区

4. 調査の方法

調査対象地の水田に対して、幅約1m、長さ約20～30mのトレンチ（試掘溝）を設定し、遺物や遺構の確認作業を行った。原則水田1筆ごとにトレンチ1箇所設定し、遺構・遺物の有無や遺存状況を確認した。掘削箇所の平面配置図と土層断面図の作成は業者委託とした。

5. 調査面積

掘削面積 約480㎡（調査対象総面積21,925㎡）、総トレンチ数 22本

内 訳

- ・蛇田B-3地区（調査対象面積13,188㎡）：1～12T（トレンチ）

幅1m、長さ約20mのトレンチ：計12本（掘削面積240㎡）

- ・C地区（調査対象面積4,827㎡）：13～18T

幅1m、長さ約30mのトレンチを1本・幅1m、長さ約20mのトレンチを5本
：計6本（掘削面積130㎡）

- ・D地区（調査対象面積3,910㎡）：19～22T

幅1m、長さ約30mのトレンチを3本・幅1m、長さ約20mのトレンチを1本
：計4本（掘削面積110㎡）

6. 調査の結果

22本のトレンチを掘り、そのうち16本のトレンチで古代（平安時代）、中世から近世（室町～江戸時代）、近代（明治時代）以降の遺物が出土した。調査では、過去の人々が生活していた痕跡を示す遺構は検出されず、遺物包含層も見当たらなかった。遺物はすべて耕作土中より出土した。出土した遺物は、B-3地区では、古代から近代までの土器・陶磁器が出土した。C地区では近世以降の陶磁器が

出土した。

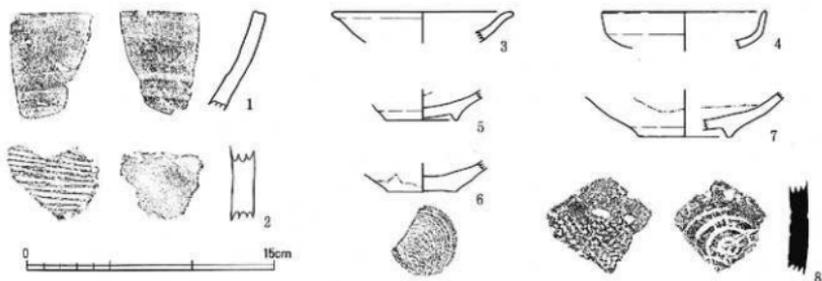
D地区では、古代（平安時代）から近世（江戸時代）にいたる土器・陶磁器が出土した。

中世の遺物が少量出土しているが、遺構や遺物包含層が検出されなかったことから、次年度以降の施工箇所、設計変更や本発掘調査の必要はない旨を報告した。

7. 出土遺物（図版第17、第40図）

出土した遺物はコンテナ2箱分で、須恵器、土師皿、珠洲、越中瀬戸、瀬戸美濃、青磁、近世陶磁器などが出土した。

珠洲は、甕と播鉢を確認した。越中瀬戸は、高台の付かないもの（6）と高台が付くもの（5・7）があり、前者には、底部に回転糸切りの痕跡が確認できる。



第39図 蛇田地区出土遺物実測図（縮尺 1/3）

第4表 平成19年度試掘調査実施一覧

遺跡名	所在地	調査の原因	調査期間	対象面積 (㎡)	調査面積 (㎡)
早月上野遺跡	上野	墓地建設	平成19年6月18日	500	50
天王寺A遺跡	天王	宅地造成	平成19年6月20日～同6月21日	1252	93
蛇田地区	蛇田	ほ場整備	平成19年10月22日～同11月8日	21925	480

第3章 測量調査の概要

第1節 平成17（2005）年度の調査

天神山城跡測量調査

1. 測量調査の目的

富山県（越中国）の中世戦国史において重要な位置を占める山城のひとつとして松倉城跡がある。松倉城はその周囲に支城（山城・平城）や砦を配し、広域な松倉城壘群を形成していた。そのひとつに、天神山城跡がある。城は布施川と片貝川にはさまれた天神台地上にある独立丘陵である天神山（標高163m）に位置する。城跡には複数の平坦面や土塁、堅堀などが残り、本丸・二の丸跡を含む山頂部は市の史跡に指定されている。

平成13年度から松倉城壘群調査を実施し、分布調査や試掘調査、主要な山城の遺構の広がりを確認するため、地形測量図を作成してきた。地形測量調査は、平成14年度に鹿熊ホーエン遺跡、15年度には升方城跡、16年度には水尾城跡において実施し、各城の測量図は、『松倉城壘群発掘調査報告Ⅰ～Ⅳ』（魚津市教委2002～2005）に添付した。天神山城跡を測量調査した平成17年度は、開発に伴う試掘調査が重なり、城壘群調査の報告書が刊行できなかったため、本書に添付した。城跡には、道路や構築物、植樹行為によって遺構の破壊を受けている箇所もまま見られる。また天神山の周辺でも、土取作業や地すべり防止工事などの開発行為が見受けられるため、本測量調査によって、現在の遺構遺存状況の把握や開発事業との調整、今後の整備のための基礎資料とすることを目的とした。

2. 現地調査期間

調査準備 平成17年4月25日～8月31日

地形測量調査 平成17年9月1日～平成18年3月1日

3. 業務委託先

株式会社日本テクニカルセンター

4. 調査対象地

小川寺字天神山内地

5. 調査対象面積

約61,000㎡

6. 調査の方法

地形測量図の作成は測量業者へ業務委託した。現地作業の着手前には、委託業者と調査員が現地で遺構の分布状況を詳細に確認していった。測量の妨げとなる雑木の除伐や草刈作業は市の史跡範囲である本丸・二の丸跡周辺を中心に行い、視界の確保と遺構の現状確認につとめた。測量図には、土塁や堀跡、郭跡などの遺構や現在の構築物などを可能な限り図化した。図面は、遺構のみを記した「遺

構図」とさらに等高線を併せた「地形図」の2種類を作成した。図面の縮尺は500分の1であり、それを縮小して1000分の1を作成した。本書には500分の1の遺構図と地形図を添付した。

第4章 結語

本書は、平成17～19年度にかけて実施された、開発事業に伴う試掘調査報告である。17年度は、蛇田B遺跡をはじめとする計3件、18年度はHS-09遺跡をはじめ計9件、19年度は早月上野遺跡など計3件の調査結果の概要を報告している。本発掘調査となったのは、天神山遺跡のみで、本調査の概要は別途刊行する報告書を参照されたい。他の遺跡は、現状保存されたものや遺構や遺物が確認されず、計画どおり工事実施となった。

<平成17年度>

蛇田B遺跡は、中近世の遺物が少量出土したが、遺構や遺物包含層は検出されなかった。今回の試掘調査によって、埋蔵文化財包蔵地のほぼ全域を調査したことになり、この結果を受けて、遺跡地岡より削除することとした。

大光寺遺跡では、全てのトレンチから穴や土坑などの遺構が検出された。さらに縄文時代、中世の遺物の他に、古代の須恵器が確認されたことから、本遺跡の所属年代である、縄文時代、中世に、古代を追加した。

印田遺跡では、過去の削平が著しく、遺構・遺物は検出されなかった。今回の試掘調査以外にもこの遺跡では、公共下水道等設置に係る工事立会を実施してきた。土地の削平以外でも、遺構や遺物包含層が確認されない範囲が広く見られ、遺跡の範囲を縮小すべきかどうか、今後も調査データの蓄積を重ねていく必要がある。

<平成18年度>

友道遺跡では、3件の試掘調査のうち1件の試掘調査で、遺構・遺物がともに確認された。駐車場の造成であり、現在のところ埋蔵文化財に影響はないといえるが、今後、宅地造成など地下を掘削する場合には再度調査が必要となってくるだろう。個人住宅建設に伴う調査では、遺構は確認されなかったが、少量の遺物を含む層位が検出された。この層以下の掘削を最小限にとどめることとして工事が実施された。

HS-09遺跡のほぼ全域と小川寺地区の調査では、少量の遺物が出土したが、遺構や遺物包含層は確認されなかった。小川寺地区での調査では、遺跡は確認されなかったが、調査対象地が、沼もしくは湿地のような状態であったと推測され、その埋土から中世全般にわたる遺物も出土しており、周辺に未発見の中世集落の存在が推測される。

天神山遺跡では、当初は遺跡の境界付近であったため、遺跡は無いと想定していたが、縄文時代中期の土器と共に土坑や竪穴状遺構が検出された。

本江B遺跡では、時期不明のピットが検出され、遺物も少量出土したが、遺跡と断定できるものは確認できなかった。昭和60年度の本調査と併せ、埋蔵文化財包蔵地の大半を調査したといえる。

仏田遺跡では、遺跡の周縁部を調査したが、遺構は確認されず遺物も少量であった。19年度に国道建設に伴う試掘調査を実施した際に、古代の遺物や遺構が多数検出され、概期の集落跡と推定されている。確認された遺跡は、片貝川旧扇状地上の微高地に立地しており、18年度に実施した試掘調査箇所は谷状になっており遺跡の境界となる場所である。

<平成19年度>

蛇田・小川寺地区（布施川左岸地区）では、現場整備事業に伴う試掘調査の最終年度であったが、HS-09遺跡の周辺においても、遺構や遺物包含層は検出されなかった。HS-09遺跡の周辺部も含め全域を調

査した結果を受けて、周知の埋蔵文化財包蔵地より削除することとした。

天王寺A遺跡の調査では旧川跡が検出された他に少量の遺物が出土した程度である。層序から、調査区の東側に遺跡の中心部が所在するものと推測される。

早月上野遺跡では、遺跡の中心部付近の調査区であったが、過去の地形改変による削平が顕著であり、埋蔵文化財は確認されなかった。なお調査区は北陸新幹線の建設予定地と隣接しており、この発掘調査では、縄文時代中期の集落跡などが確認されている。

参考文献

- | | | |
|-----------|------|-------------------------|
| 魚津市史編纂委員会 | 1968 | 魚津市史上巻 |
| 魚津市史編纂委員会 | 1982 | 魚津市史資料編 |
| 魚津市教育委員会 | 2006 | 魚津の文化財 |
| 魚津市教育委員会 | 1973 | 魚津市埋蔵文化財遺跡分布調査報告書-1973- |
| 魚津市教育委員会 | 1983 | 富山県魚津市遺跡分布調査概要Ⅰ |
| 魚津市教育委員会 | 1983 | 富山県魚津市遺跡分布調査概要Ⅱ |
| 魚津市教育委員会 | 1985 | 富山県魚津市遺跡分布調査概要Ⅲ |
| 魚津市教育委員会 | 1986 | 富山県魚津市本江地内埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 魚津市教育委員会 | 2002 | 松倉城壘群発掘調査報告Ⅰ |
| 魚津市教育委員会 | 2003 | 松倉城壘群発掘調査報告Ⅱ |
| 魚津市教育委員会 | 2004 | 松倉城壘群発掘調査報告Ⅲ |
| 魚津市教育委員会 | 2005 | 松倉城壘群発掘調査報告Ⅳ |

第5表 市内試掘調査出土土物観察表その1

遺跡名	遺物 番号	出土 地点	種類	器種	法量 (cm)			調整技法		備考	実測 番号
					口径	底径	器高	外面			
								外面	内面		
蛇田B遺跡	1	3T	須恵器	杯	—	5.6	—	ロクロナデ	ロクロナデ		4
	2	15T	土師器	皿	8.6	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	底部回転糸切り	3
	3	16T	越中瀬戸	皿	—	4.8	—	ロクロナデ	ロクロナデ	施釉	1
	4	16T	越中瀬戸	皿	13.2	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	施釉	2
大光寺遺跡	1	1T	縄文土器	—	—	—	—	沈線文	風化	煤付着	3
	2	1T	縄文土器	—	—	—	—	縄文	ミガキ		4
	3	2T	縄文土器	深鉢	—	—	—	沈線文・爪形文・刺突文	ミガキ	波状口縁	8
	4	5T	縄文土器	深鉢	—	—	—	沈線文・キザミ目文	ナデ		10
	5	1T	縄文土器	—	—	—	—	半隆起線文・沈線文・爪形文	ミガキ	波状口縁 炭化物付着	6
	6	1T	縄文土器	—	—	—	—	半隆起線文・爪形文・刺突文	ナデ		9
	7	2T	縄文土器	—	—	—	—	渦巻文・キザミ目文	ミガキ		7
	8	1T	縄文土器	深鉢	—	—	—	半隆起線文・縄文	ミガキ	炭化物付着	5
	9	2T	縄文土器	—	—	—	—	半隆起線文・渦巻文	風化		2
	10	表採	須恵器	杯	—	6.5	—	ロクロナデ	ロクロナデ		13
	11	5T	白磁	皿	11	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ	施釉	12
	12	2T	珠洲	胴部	—	—	—	平行タタキ目	ナデ		1
	13	5T	珠洲	胴部	—	8	—	ロクロナデ	ロクロナデ	底面ハケ	11
友道遺跡 (砂田)	1	4T	須恵器	杯	13.4	—	—	ロクロナデ	ロクロナデ		7
	2	4T	須恵器	杯	—	5.8	—	ロクロナデ	ロクロナデ		6
	3	1T	須恵器	杯	—	6.4	—	ロクロナデ	ロクロナデ		9
	4	1T	須恵器	杯	—	5.6	—	ロクロナデ	ロクロナデ	焼成不良	8
	5	3T	須恵器	甕	—	—	—	タタキ目	タタキ目		3
	6	3T	須恵器	底部	—	16.2	—	ロクロナデ・ケズリ	ロクロナデ		4
	7	4T	土師器	皿	14.8	—	—	ナデ	ナデ		5
	8	2T	越中瀬戸	皿	—	4.2	—	ロクロナデ	ロクロナデ	施釉	1
	9	1T	越中瀬戸	陶鉢	2.3	—	3.1	ナデ	ナデ	完形品	2
友道遺跡 (友道)	1	7T	須恵器	蓋	12.8	—	2.7	ロクロナデ	ロクロナデ	完形品	9
	2	7T	須恵器	杯	—	6.4	—	ロクロナデ	ロクロナデ		5
	3	8T	土師器	皿	8.6	—	—	ナデ	風化		3
	4	8T	土師器	皿	14	—	—	ナデ	ナデ		4
	5	表採	唐津	碗	—	6.7	—	ロクロナデ	ロクロナデ	施釉	2
	6	5T	唐津	碗	—	3.4	—	ロクロナデ	ロクロナデ	施釉	1
	7	8T	土師器	底部	—	4.5	—	ナデ	ナデ	底部回転糸切り	7
	8	8T	珠洲	胴部	—	—	—	平行タタキ目	ナデ		11
	9	8T	土師器	輪口	—	—	—	ナデ	風化		6
	11	7T	須恵器	甕	20.8	—	—	ロクロナデ・タタキ目	ロクロナデ 当て具痕		10
	友道遺跡 (本江)	1	2T	土師器	皿	13	—	—	風化	風化	
2		2T	土師器	皿	13.2	—	—	ナデ	ナデ		1
3		2T	土師器	皿	14.2	—	—	風化	風化		2
4		1T	越中瀬戸	皿	—	4.4	—	ロクロナデ	ロクロナデ	底部回転糸切り 施釉	4
5		2T	越中瀬戸	陶鉢	—	—	—	風化	風化		5
仏田遺跡	1	表採	須恵器	胴部	—	—	—	平行タタキ目	タタキ目		2
	2	1T	須恵器	胴部	—	—	—	平行タタキ目	平行タタキ目		1
HS-09遺跡	1	7T	越中瀬戸	深鉢	—	—	—	ロクロナデ	撚目	施釉	1

第6表 市内試掘調査出土遺物観察表その2

遺跡名	遺物番号	出土地点	種類	器種	法量 (cm)			調整技法		備考	実測番号
					口径	底径	器高	外面	内面		
小川寺地区	1	17T	土師器	皿	8.5	-	-	ナデ	ナデ		7
	2	1T	土師器	皿	15.8	-	-	ナデ	ナデ	灯芯油痕	17
	3	20T	土師器	皿	17	-	-	風化	風化		5
	4	23T	土師器	皿	12.9	-	-	ナデ	ナデ		20
	5	17T	土師器	皿	13.4	-	-	ナデ	ナデ		6
	6	6T	土師器	皿	-	5.1	-	ナデ	ナデ	底部回転糸切り	15
	7	15T	珠洲	播鉢	33.2	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	播目	1
	8	20T	珠洲	播鉢	33.8	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	「大」のへら記号	4
	9	20T	珠洲	播鉢	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	播目	2
	10	16T	珠洲	播鉢	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	液状文 焼成不良	9
	11	2T	珠洲	甕	-	-	-	平行タタキ目	ナデ		12
	12	20T	珠洲	甕	-	-	-	平行タタキ目	ナデ	大型品	3
	13	23T	珠洲	胴部	-	-	-	平行タタキ目	ナデ		10
	14	1T	不明	胴部	-	-	-	不明	ナデ	魚鱗	19
	15	1T	青磁	皿	15	-	-	-	-	施釉	18
	16	4T	青磁	皿	16	-	-	-	-	施釉	16
	17	17T	白磁	皿	8.8	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	施釉	8
	18	3T	越中瀬戸	底部	-	4.5	-	ロクロナデ	ロクロナデ	施釉	13
	19	3T	越中瀬戸	皿	8	3.6	-	ロクロナデ	ロクロナデ	底部回転糸切り 施釉	14
	20	13T	越中瀬戸	底部	-	8	-	ロクロナデ	ロクロナデ	底部回転糸切り 施釉	11
天神山遺跡	1	1T	縄文土器	-	-	-	半隆起線文・キザミ目文	ナデ		1	
	2	1T	縄文土器	-	-	-	半隆起線文	風化		2	
	3	1T	縄文土器	-	-	-	縄文	ミガキ		3	
	4	1T	縄文土器	-	-	-	半隆起線文・爪形文	風化		4	
	5	1T	縄文土器	-	-	-	半隆起線文・キザミ目文	風化		13	
	6	1T	縄文土器	-	-	-	爪形文・縄文	ナデ		8	
	7	1T	縄文土器	-	-	-	半隆起線文・沈線文	風化		5	
	8	1T	縄文土器	-	-	-	半隆起線文	風化	外面煤付着	6	
	9	1T	縄文土器	-	-	-	隆起線文	風化		11	
	10	1T	縄文土器	-	-	-	半隆起線文・縄文	ナデ		7	
	11	1T	縄文土器	-	-	-	半隆起線文・キザミ目文・渦巻文	風化		14	
	12	1T	縄文土器	-	-	-	半隆起線文・刺突文	風化		12	
	13	1T	縄文土器	-	-	-	半隆起線文・渦巻文	ナデ	内面炭化物付着	10	
	14	1T	縄文土器	-	8.8	-	ナデ	風化		16	
	15	1T	縄文土器	-	14.5	-	風化	ナデ	内面炭化物付着 底面網代製	9	
本江B遺跡	1	2T	白磁	碗	15	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	施釉	1
天王寺A遺跡	1	1T	須恵器	蓋	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ		1
	2	1T	須恵器	蓋	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ		2
蛇田地区	1	3T	珠洲	播鉢	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ		2
	2	表採	珠洲	胴部	-	-	-	平行タタキ目	ナデ		5
	3	11T	瀬戸美濃	皿	10.8	-	-	-	-	施釉	3
	4	11T	越中瀬戸	皿	9.8	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	施釉	4
	5	10T	越中瀬戸	皿	-	4.3	-	ロクロケズリ	ロクロナデ	施釉	9
	6	9T	越中瀬戸	皿	-	4.2	-	ロクロナデ	ロクロナデ	底部回転糸切り 施釉	6
	7	3T	越中瀬戸	皿	-	5.4	-	ロクロケズリ	ロクロナデ	施釉	1
	8	9T	須恵器	胴部	-	-	-	タタキ目	当て具痕		8
-	表採	青磁	碗	-	-	-	播播連弁文	-	施釉	7	

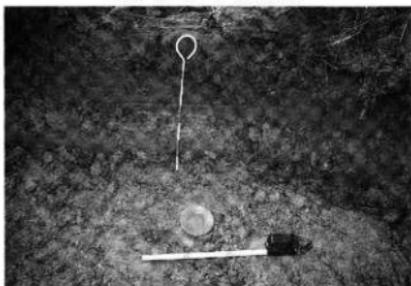
写 真 图 版



(1) 3トレンチ (北より)



(2) 15トレンチ (北より)



(3) 15トレンチ出土の中世土師器皿



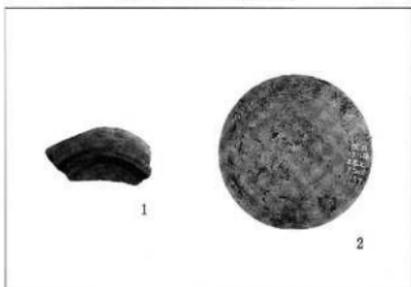
(4) 16トレンチ (北より)



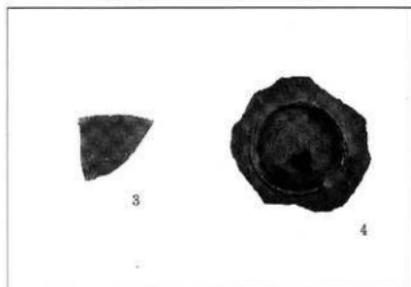
(5) 24トレンチ (北より)



(6) 豪雪により埋没した調査区



(7) 蛇田地区出土遺物その1



(8) 蛇田地区出土遺物その2



(1) 1トレンチ調査状況(北より)



(2) 1トレンチ(南より)



(3) 1トレンチ遺構検出状況(北より)



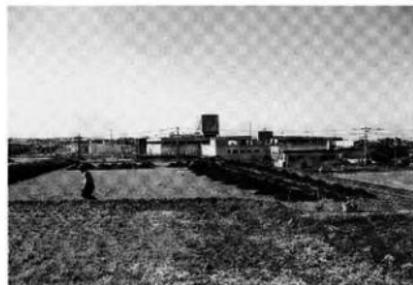
(4) 1トレンチ遺構検出状況(南より)



(5) 2トレンチ(東より)



(6) 1・2トレンチ(東より)



(7) 3・4トレンチ(北より)



(8) 3トレンチ遺構検出状況(北より)



(1) 4トレンチ遺構検出状況(東より)



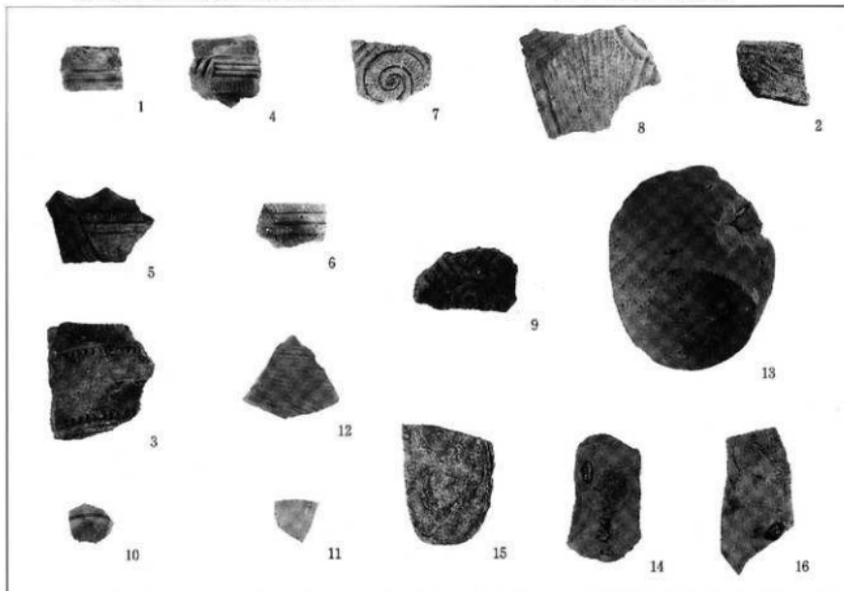
(2) 5トレンチ(南より)



(3) 5トレンチ遺構検出状況(北より)



(4) 5トレンチ(北より)



(5) 大光寺遺跡出土遺物



(1) 調査状況(東より)



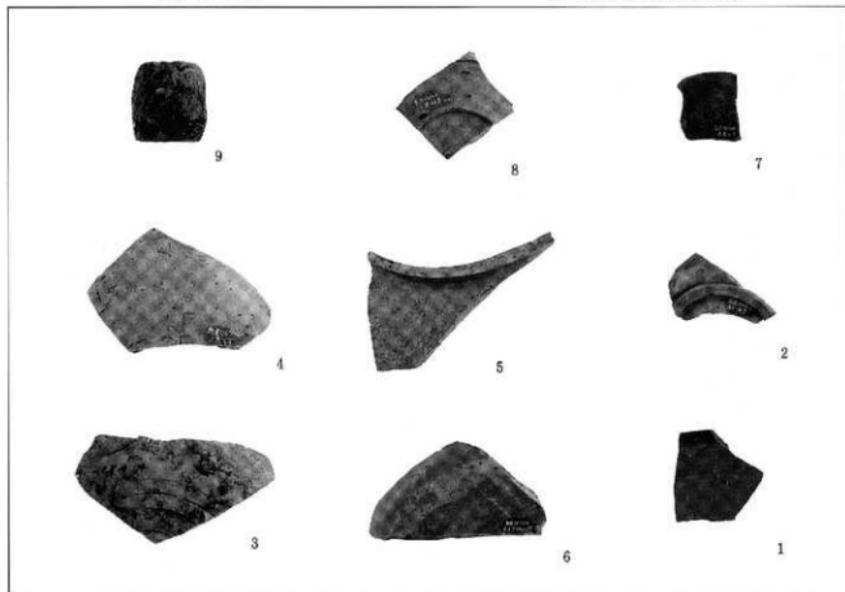
(2) 1トレンチ



(3) 3トレンチ



(4) 埋め戻し状況(東より)



(5) 友道遺跡(砂田地区)出土遺物



(1) 調査区状況(南より)



(2) 4トレンチ調査状況



(3) 1トレンチ(南より)



(4) 2トレンチ(西より)



(5) 4トレンチ(東より)



(6) 5トレンチ(南より)



(7) 6トレンチ(南より)



(8) 7トレンチ(北より)



(1) 8トレンチ(東より)



(2) 7トレンチ須恵器出土状況その1(東より)



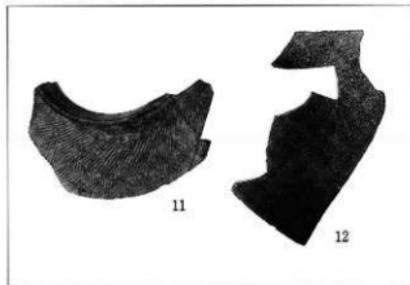
(3) 7トレンチ須恵器出土状況その2(南より)



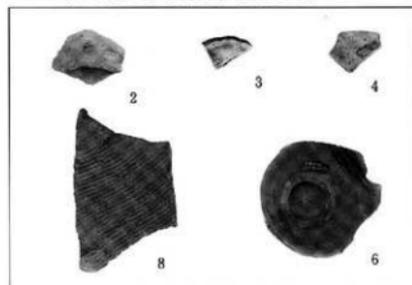
(4) 7トレンチ遺物採取後の状況(東より)



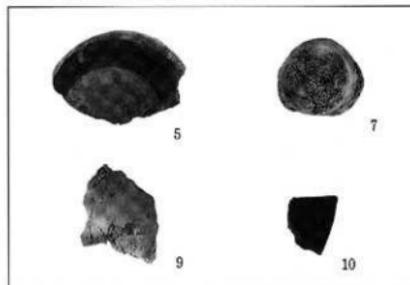
(5) 友道遺跡(友道地区)出土遺物その1



(6) 友道遺跡(友道地区)出土遺物その2



(7) 友道遺跡(友道地区)出土遺物その3



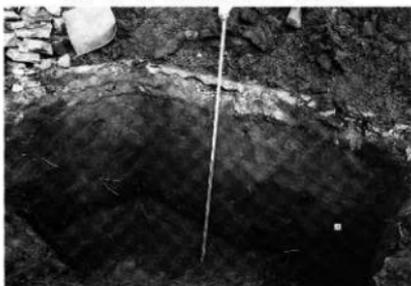
(8) 友道遺跡(友道地区)出土遺物その4



(1) 1トレンチ調査状況その1 (南より)



(2) 1トレンチ調査状況その2 (西より)



(3) 1トレンチ東壁その1



(4) 1トレンチ東壁その2



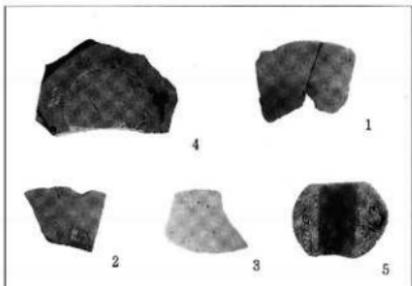
(5) 2トレンチ調査状況その1 (西より)



(6) 2トレンチ調査状況その2 (西より)



(7) 2トレンチ南壁



(8) 友道遺跡(本江地区) 出土遺物



(1) 調査区状況 (北より)



(2) 1トレンチ東壁



(3) 2トレンチ (東より)



(4) 3トレンチ (北より)



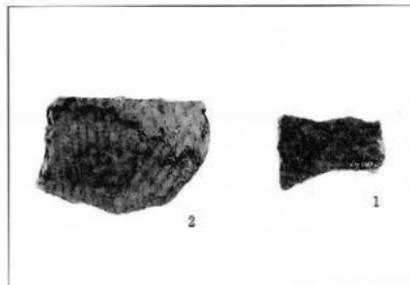
(5) 3トレンチ (南より)



(6) 4トレンチ (東より)



(7) 5トレンチ (北より)



(8) 仏田遺跡出土遺物



(1) 調査区状況その1 (西より)



(2) 調査区状況その2 (南より)



(3) 調査区状況その3 (北より)



(4) 5トレンチ (南より)



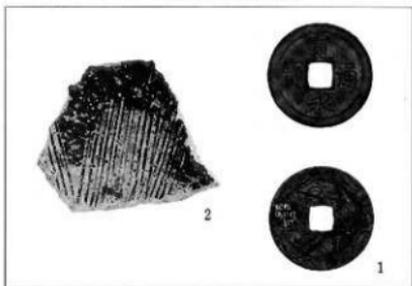
(5) 7トレンチ (北より)



(6) 8トレンチ (南より)



(7) 12トレンチ (南より)



(8) IIS-09遺跡出土遺物



(1) 調査区状況その1 (西より)



(2) 調査区状況その2 (東より)



(3) 15トレンチ (南より)



(4) 17トレンチ (南より)



(5) 20トレンチ (北より)



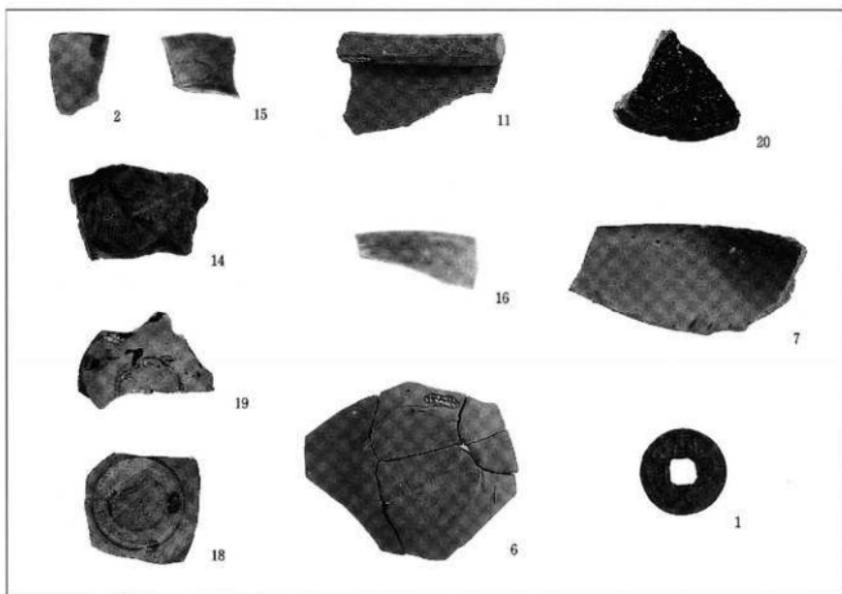
(6) 23トレンチ (南より)



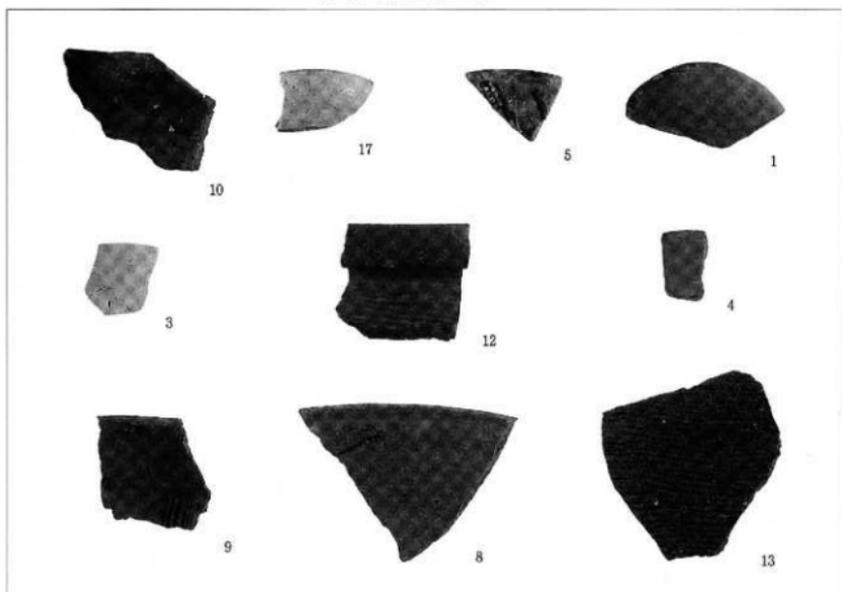
(7) 1トレンチ調査状況 (南より)



(8) 6トレンチ (南より)



(1) 小川寺地区出土遺物その1



(2) 小川寺地区出土遺物その2



(1) 調査区状況その1 (西より)



(2) 調査区状況その2 (東より)



(3) 1トレンチ調査状況その1 (東より)



(4) 1トレンチ調査状況その2 (西より)



(5) 1トレンチ遺物出土状況 (東より)



(6) 1トレンチ調査状況その3 (西より)



(7) 1トレンチ中央部遺構検出状況 (東より)



(8) 1トレンチ北壁



(1) 1トレンチ中央部(東より)



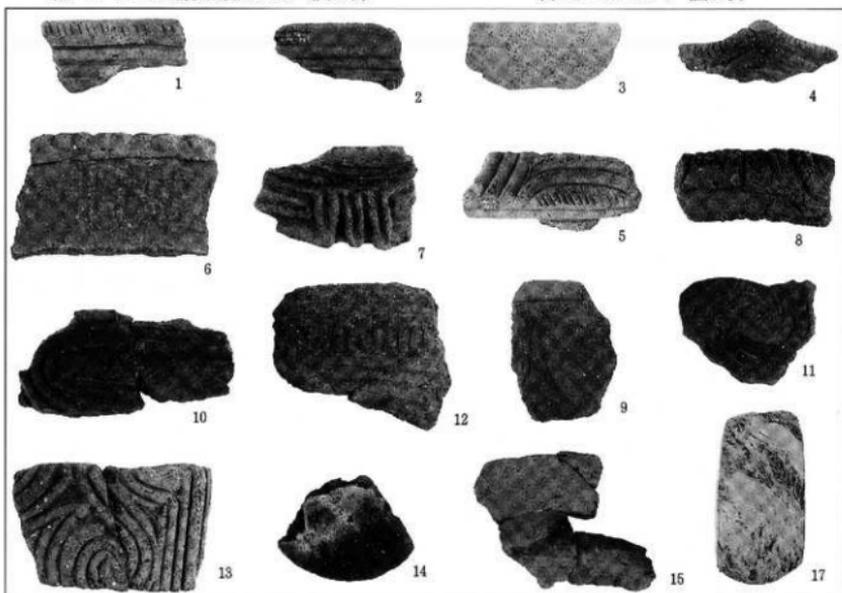
(2) 1トレンチ遺構検出状況その1(西より)



(3) 1トレンチ遺構検出状況その2(西より)



(4) 2~4トレンチ(西より)



(5) 天神山遺跡出土遺物



(1) 調査区状況その1 (北より)



(2) 調査区状況その2 (西より)



(3) 3トレンチ掘削状況 (西より)



(4) 5トレンチ調査状況 (南より)



(5) 7トレンチ調査状況 (西より)



(6) 2トレンチ遺構検出状況 (南より)



(7) 4トレンチ遺構検出状況 (西より)



(8) 本江B遺跡出土遺物



(1) 調査区状況 (東より)



(2) 1トレンチ調査状況 (西より)



(3) 1トレンチ (東より)



(4) 2トレンチ (南より)



(5) 2トレンチ (南より)



(6) 3トレンチ (西より)



(7) 3トレンチ (東より)



(8) 天王寺A遺跡出土遺物



(1) 調査区状況その1 (東より)



(2) 3トレンチ (南より)



(3) 9トレンチ (北より)



(4) 12トレンチ (南より)



(5) 調査区状況その2 (西より)



(6) 13トレンチ (南より)



(7) 13トレンチ調査状況 (北より)



(8) 17トレンチ (南より)



(1) 調査区状況その3 (東より)



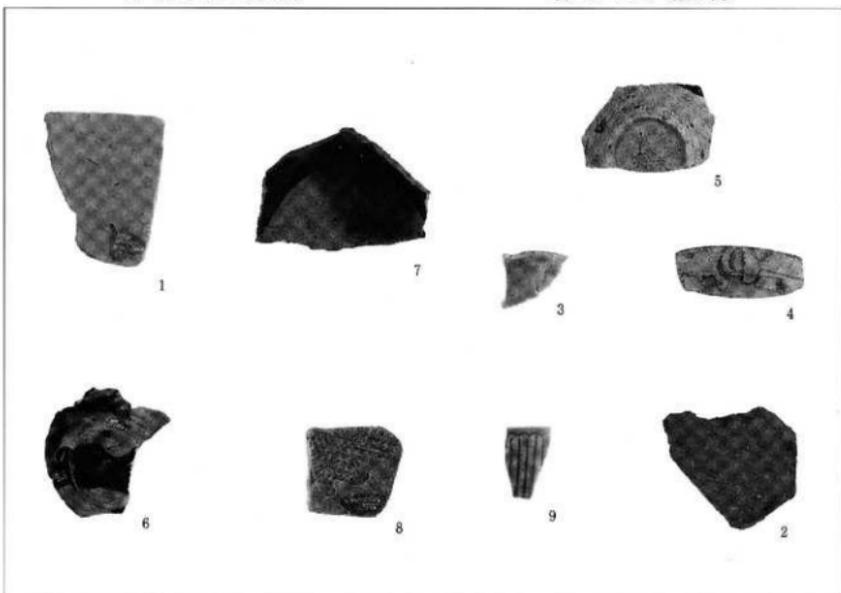
(2) 調査区状況その4 (西より)



(3) 19トレンチ (南より)



(4) 20トレンチ (北より)



(5) 蛇田地区出土遺物

報告書抄録

ふりがな	しないいせきくつちょうさほうこくしょ								
書名	市内遺跡試掘調査報告書								
シリーズ名									
編著者名	塩田明弘・の場茂晃								
編集機関	魚津市教育委員会								
編集機関住所	〒937-0066 富山県魚津市北鬼江313-2 TEL 0765-23-1045								
発行年月日	西暦2008年3月28日								
所収遺跡名	所在地	遺跡番号	北緯		東経		調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
			°	'	°	'			
へびがきふちの道跡	へびがき	204014	36° 50' 07"	137° 27' 14"	051114~051212 060306~060307		890	ほ場整備	
大光寺遺跡	大光寺	204043	36° 48' 20"	137° 24' 43"	060322~060328		136	遺構範囲確認(開発実施決定の資料)	
印出遺跡	印出	204037	36° 48' 46"	137° 25' 29"	060530		34.5	個人住宅建設	
友道遺跡	友道砂田	204042	36° 48' 39"	137° 25' 29"	060605~060606		12	個人住宅建設	
	友道				061102~061103		28	駐車場建設	
	本江				070213		8	個人住宅建設	
仏田遺跡	仏田	204117	36° 50' 14"	137° 25' 12"	060822~060824		120	工場建設	
	仏田				061211		50	駐車場建設	
HS-09遺跡	蛇田	204111	36° 50' 02"	137° 27' 23"	061106~061130		396	ほ場整備	
小川寺地区	小川寺	-	36° 49' 23"	137° 27' 24"	061010~061101		967	ほ場整備	
天神山遺跡	小川寺	204016	36° 49' 21"	137° 27' 16"	061108~061110		100	地崩れ防護壁建設	
本江B遺跡	本江	204030	36° 48' 53"	137° 25' 09"	061204~061206		170	宅地造成	
早月上野遺跡	上野	204064	36° 46' 40"	137° 24' 48"	070618		50	墓池建設	
天王寺A遺跡	天王	204003	36° 50' 34"	137° 25' 08"	070620・21		93	宅地造成	
蛇田地区	蛇田	-	36° 50' 00"	137° 28' 19"	071022~071108		480	ほ場整備	

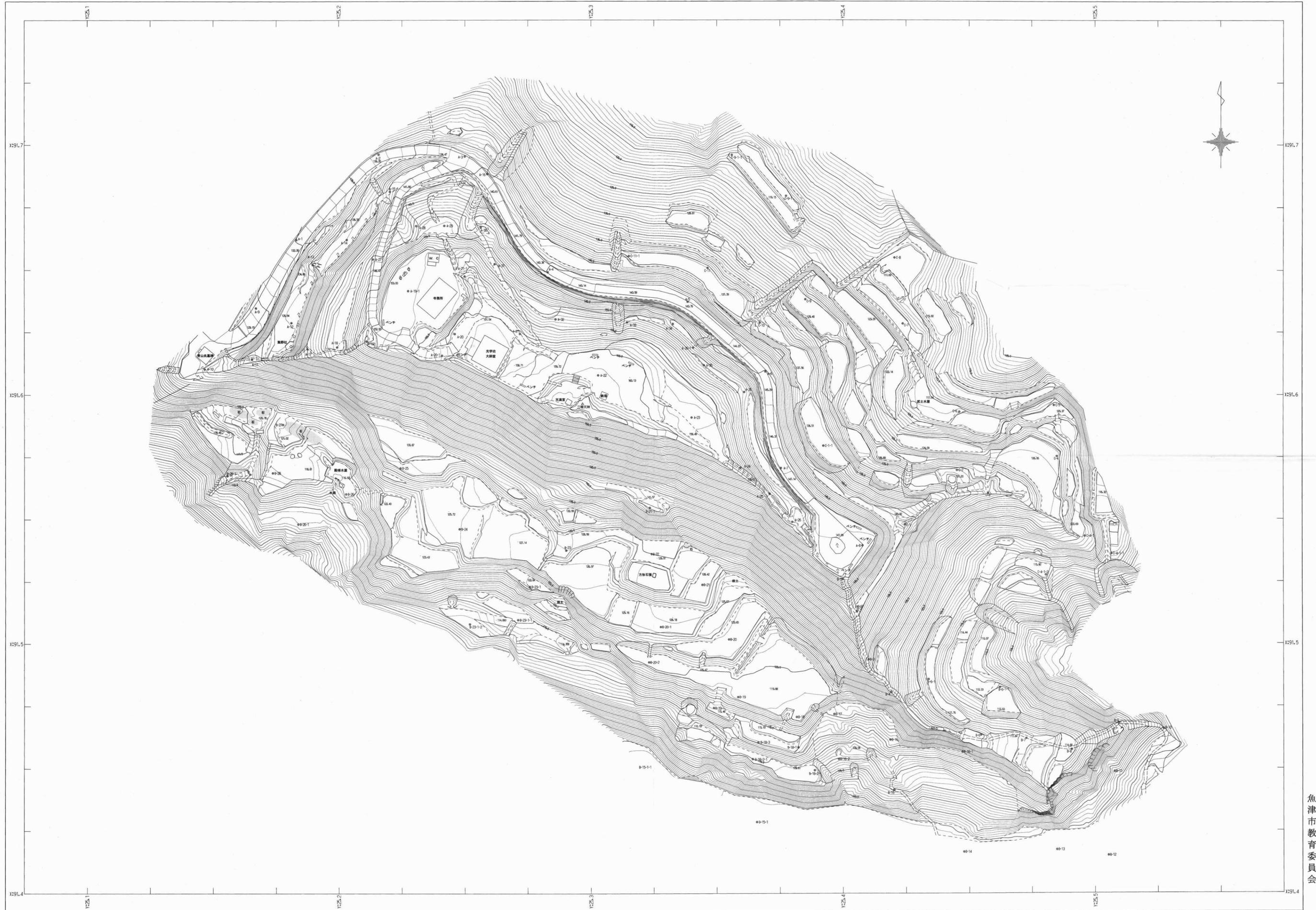
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
蛇田B遺跡	集落	古代・中世	なし	須恵器・越中瀬戸	
大光寺遺跡	集落	縄文・古代・中世	ビット・土坑・住居	縄文土器・石刃・須恵器・珠洲・白磁	
印出遺跡	集落	縄文・古代	なし	なし	
友道遺跡	集落	古墳・奈良・平安	ビット・土坑・住居	須恵器・土師皿・越中瀬戸・土鏡	
仏田遺跡	集落	古墳・古代・中世・近世	なし	須恵器	
HS-09遺跡	散布地	近世	なし	越中瀬戸・古銭	
小川寺地区	散布地	中世・近世	なし	上節皿・珠洲・越中瀬戸・古銭	
天神山遺跡	集落	縄文	ビット・土坑	縄文土器・石器	
本江B遺跡	集落	縄文・平安・室町	なし	白磁	
早月上野遺跡	集落	縄文・古代・中世	なし	なし	
天王寺A遺跡	集落	古代	自然落ち込み	須恵器	
蛇田地区	散布地	古代・中世・近世	なし	須恵器・越中瀬戸・青磁	

富山県魚津市

市内遺跡試掘調査報告書

発行日	平成20年3月28日発行
編集・発行	魚津市教育委員会 〒937-0066 富山県魚津市北鬼江313-2 TEL (0765) 23-1045
印刷	魚津印刷株式会社

平成17年度 天神山城跡 平面図



㈱日本テクニカルセンター 調整

魚津市教育委員会

測図 平成18年 3月 座標系 第VII系 等高線間隔 50cm

0 25 50 100m

平成17年度 天神山城跡 遺構図



㈱日本テクニカルセンター 調整

魚津市教育委員会

測図 平成18年3月 座標系 第Ⅶ系



1:500

